

コリント

第二

④

# 「死んで生きる いのちの道」

コリント人への手紙Ⅱ 4章 落胆しないパウロの根拠

Shikaoichurch.com

# アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. 主の栄光に照らされて 1～6節
- II. 死んで生きるいのち 7～12節
- III. ゴールを見据えて 13～18節
- IV. まとめと適用
  - 落胆しない根拠を知ろう



## コリントの手紙第二とは？

- **著者** …使徒パウロ。
- **年代** …第一(55年)の2年後、57年頃。
- **執筆場所** …コリントへの途上、ピリピ。
- **対象** …コリントのキリスト者たち  
(離散のユダヤ人と異邦人)
- **目的** …アフターケア。献金の促し。  
非難への弁明。再訪問の備え。



## パウロのコリント訪問

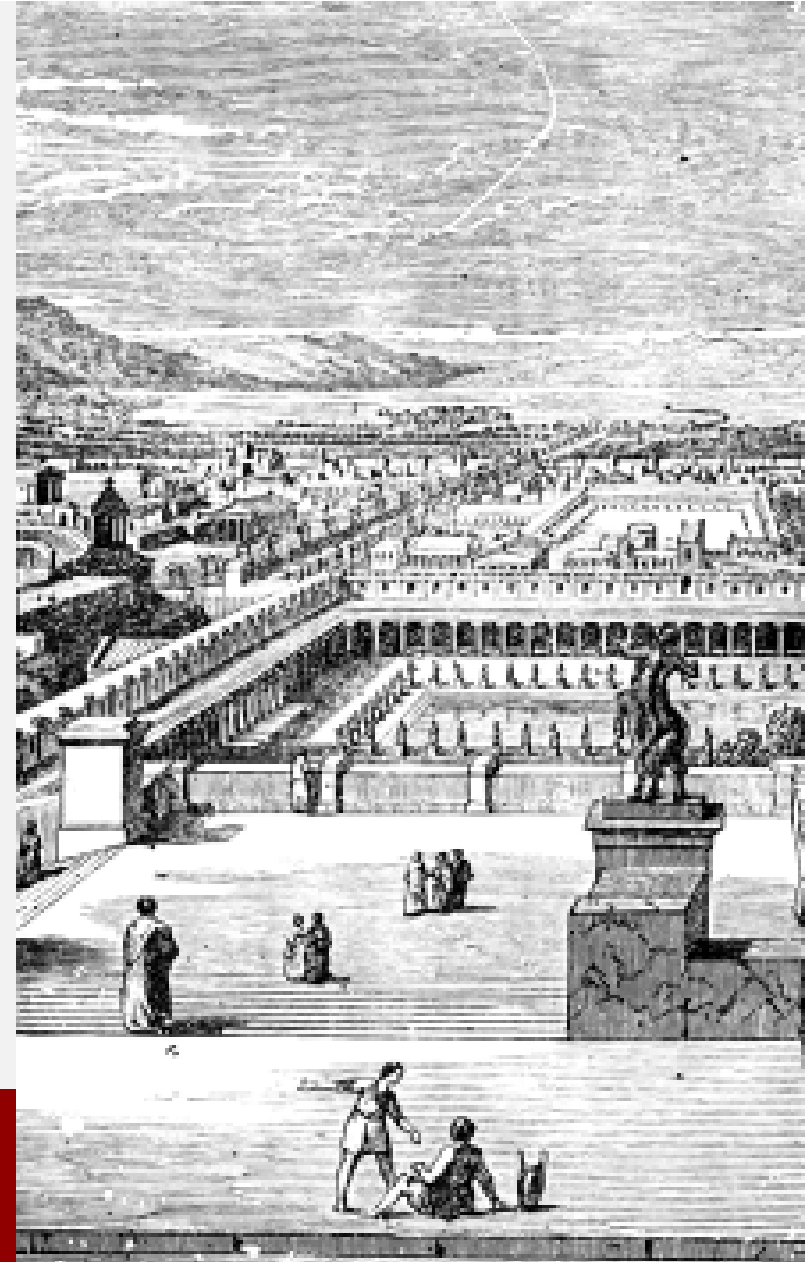
- ① 最初の訪問 (第二次旅行) ・ 1年半滞在 50年
- ② エペソ滞在中 (第三次旅行) 手紙 A を送付  
第一の手紙を送付 54～55年
- ③ 二度目の訪問 (Ⅱ コリ 13:2) 55年  
手紙 B (悲しみの手紙) を送付
- ④ コリントへの途上で (ピリピ?)  
テトスと合い、現状を聞く  
第二の手紙を送付 55～56年
- ⑤ 三度目の訪問 55～56年



## 【コリントとコリント教会】

- アカヤ州(ギリシャ南部)の州都  
国際都市。ローマ人、ギリシャ人…etc。  
かなりの規模のユダヤ人共同体も存在。
- **不道德**の町。少年への性愛、複数の愛人。  
神殿娼婦の存在。 **偶像崇拜**が蔓延。
- 異邦人信者が主流。偶像への警戒の薄さ。  
基本的教理からの逸脱。自由のはき違え。

第一の手紙の後に変化はあったのか？



# 使徒の福音宣教におけるコリントの地勢的重要性



**教会全体にも大きな影響が!! 放置しては進めない!!**



## 第二の手紙の特徴・テーマ

- 第一の手紙は、コリントの信徒もよく知っているはずの**信仰のイロハのイ**を確認するもの。
- 変化もあった一方で、パウロに強まる反感も。
  - ① グッドニュース…罪を犯した人の悔い改め
  - ② 残念なニュース…献金が集まっていない
  - ③ バッドニュース…パウロの使徒性への疑い
- **伝えるべきこと**は、第一の手紙に執筆済み。さらに加えるとすれば、**パウロ自身の思い**。  
→ **感情**が強く表れた手紙になっている。



リーダーの視点で  
読むべき手紙

パウロの思いをくみ取り、リーダーとして私の信仰を成長させよう





I. 主の栄光に照らされて

Ⅱコリント4章1～6節

## 【落胆しない】 Ⅱコリント4:1

こういうわけで\*、私たちは、**あわれみ**を受けてこの務めについているので、落胆することがありません\*。

\*前章の内容・栄化の希望があるがゆえに!!

\*落胆するしかないような状況であっても!!

■落胆しない根拠は、**主の憐れみ**。

ただ**主の憐れみ**のゆえに救われ、  
将来の栄化までもが約束されている。

➔使命に生きる信仰者の特権



コリントの夕景

## 【主の前での弁明】 II コリント4:2

かえって、恥となるような隠し事を捨て、ずる賢い歩みをせず、神のことばを曲げず、真理を明らかにすることで、神の御前で自分自身をすべての人の良心に推薦しています\*。

■ 浮き上がるのは、パウロへの批判

→ 恥ずかしくも裏で策略を練り、ずる賢く、神の言葉を曲げ、真理を隠している。

\* 自己推薦だ、という批判(3章)を踏まえて

■ 他者の権威ではなく、一人一人に内住される聖霊による権威によって使徒とされている。



コリント・会堂跡

## 【福音の覆い】 Ⅱコリント4:3～4

それでもなお私たちの福音に覆いが掛かっているとしたら、それは、滅び行く人々に対して覆いが掛かっているということです。

彼らの場合は、この世の神\*が、信じない者たちの思いを暗くし、神のかたちであるキリストの栄光に関わる**福音の光**を、輝かせないようにしているのです。

\*あらゆる偶像の背後には悪魔(サタン)が存在



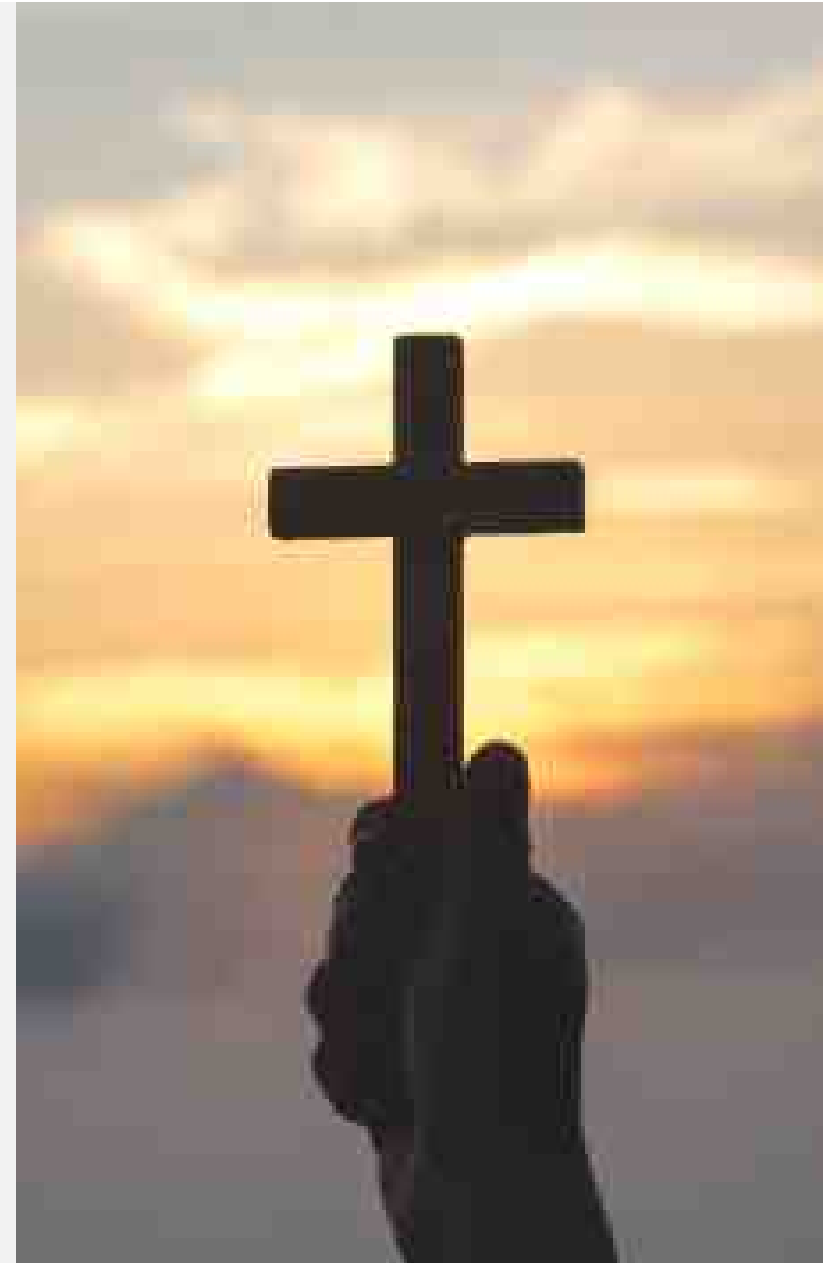
## 【大原則】 IIコリント4:5

私たちは自分自身を宣べ伝えているのではなく、**主なるイエス・キリストを宣べ伝えています**。私たち自身は、イエスのためにあなたがたに仕えるしもべ\*なのです。

■ 信仰者の力は、ただ**主イエスの福音**を宣べ伝えようとするところにのみある。

\*しもべ(奴隷)に力も主権もない。

すべては主人の権威によっている。



## 【栄光の主】 II コリント4:6

「闇の中から光が輝き出よ\*」と言われた神が、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識\*を輝かせるために、私たちの心を照らしてくださいましたのです。

\*「光あれ(創1:3)」

➔神の栄光(シャカイナグローリー)の顕現が、天地創造のはじめ。

\*聖書から私たちが学んでいること

■はじめから終わりまで、すべてのことは、生ける神の言葉である主イエスの内にある。





Ⅱ. 死んで生きるいのち Ⅱコリント4章7～12節

## 【土の器】 IIコリント4:7

私たちは、この宝を土の器\*の中に入れて  
います。それは、この測り知れない力が神の  
ものであって、私たちから出たものではない  
ことが明らかになるためです。

\*土の塵からできたのが人(創2:7)

- 主が使徒に選んだのは、漁師、徴税人、  
主イエスの迫害者で、裏切り者となった  
元パリサイ人。
- 主はご自身の栄光のため、  
弱い者を用い、力ある者を砕かれる。





## 【避けようのない苦難】 II コリント4:8～9

私たちは四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方に暮れますが、行き詰まることはありません。

迫害されますが、見捨てられることはありません。倒されますが、滅びません。

\* 信仰者には、避けようのないこと。

➡ 苦しめられ、途方に暮れ、迫害され、倒れる。

➡ しかし主は、必要を満たし、逃れの道を与え、見捨てず、滅ぼさない。



## 【主の死を帯びて】 II コリント4:10

私たちは、いつもイエスの死を身に帯びています。それはまた、イエスのいのちが私たちの身に現れるためです。

- 主イエスの福音を信じた瞬間、古い罪の私も、十字架で主と死んで、主と共に生まれ変わった。
- 古い私は死んだ。ならなぜ、死んだ私の感情を今も引きずるのか？

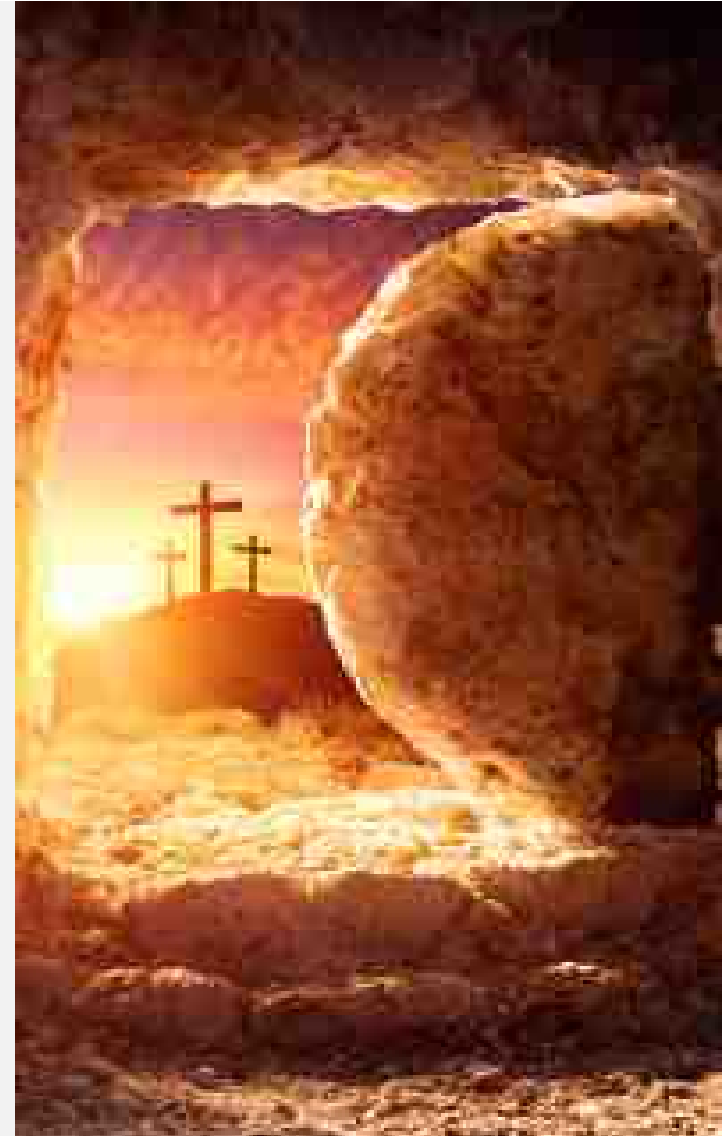
**新しい命を喜んで生きているのか？**



## 【イエスのいのちのため】 II コリント4:11

私たち生きている者は、イエスのために絶えず死に渡されています。それはまた、イエスのいのちが私たちの死ぬべき肉体において現れるためです。

- 古い私が死に、新しい私が生かされる。
  - ➔ 信仰者の成長は、罪の自覚の深まり。
    - 浮かび上がる罪の私は、すでに死んだ者。
    - 死んだ者は、手放せばいいだけのこと。



**私たちは、死んでいく過程で、同時に生かされていく**

## 【死んで働くいのち】 Ⅱコリント4:12

こうして、死は私たちのうちに働き、いのちはあなたがたのうちに働いている\*のです。

\*高度な対句法で広がる意味

死・私たち → いのち・私たち ではなく、

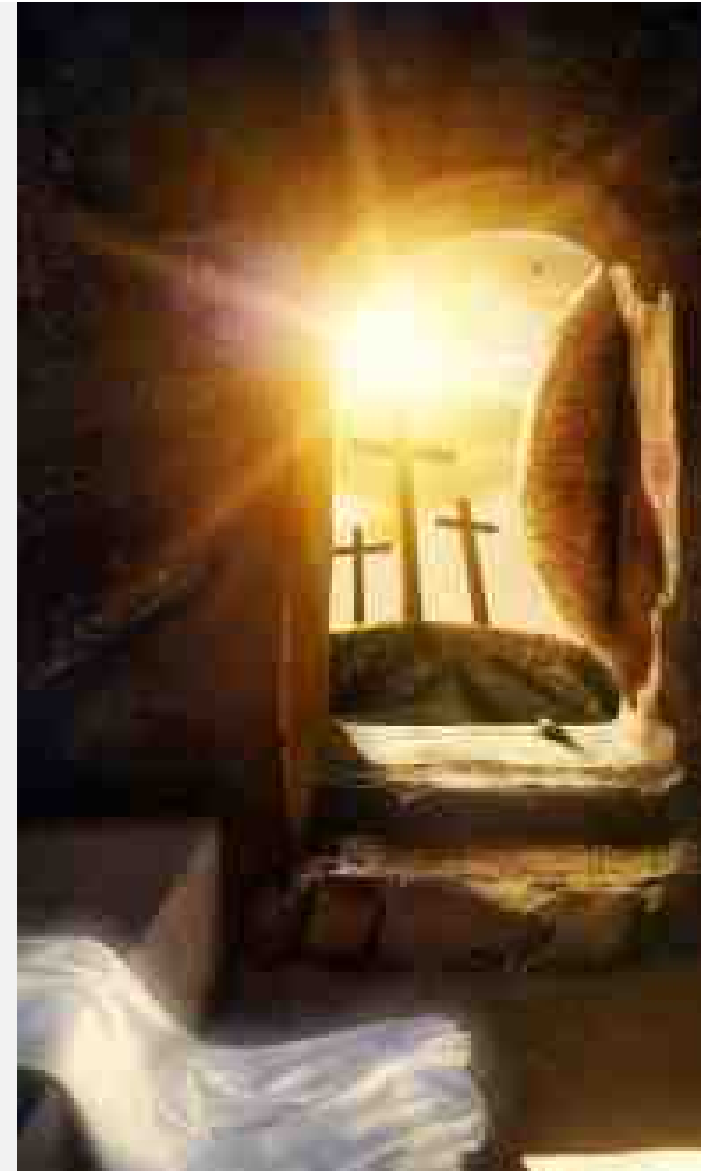
死・私たち → いのち・あなたがた

■死んで、生きるが、信仰者の原則

古い私が死んで、使命に生きるとき、

誰かが死んで、新しいいのちを生きる。

**死ぬべき私が死ねば、新しいいのちを生きる誰かが必ずいる**





Ⅲ. ゴールを見据えて Ⅱコリント4章13～18節

## 【使徒パウロの覚悟】 II コリント4:13

「私は信じています。それゆえに語ります\*」と書かれているとおり、それと同じ信仰の霊\*を持っている私たちも、信じているゆえに語ります。

\*詩篇116:10からの引用

おそらくは迫害を経験した預言者の歌。

\*稀代の信仰者だった預言者も使徒たちも

迫害されながらも語らずにはいられなかった。

「使 7:52 あなたがたの先祖たちが迫害しなかった預言者が、だれかいたのでしょうか。」

…殉教の引き金となったステパノの言葉



## 【パウロの希望】 IIコリント4:14

主イエスをよみがえらせた方が、私たちをもイエスとともによみがえらせ、あなたがたと一緒に御前に立たせてくださる\*ことを知っているからです。

\*パウロが見据えているのは将来の栄化

■福音を信じた者から救いは失われない。

聖化の過程で紆余曲折を経ながらも、

最後には必ず、栄光の体を与えられ、

王の王、主イエスの御前に立たせられる。



## 【落胆しない】 II コリント4:15~16

すべてのことは、あなたがたのためであり、恵みがますます多くの人々に及んで感謝が満ちあふれ、神の栄光が現れるようになるためなのです。ですから、私たちは落胆しません。

たとえ**私たちの**外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています\*。

■ 落胆するしかない、コリントの現実があるが、福音を信じたがゆえの、主による希望がある。

\* 宣教に命を注いでいる者にしか言えない言葉。

日々死んでいると言えるほどに、主にすべてを献げているのか？





## 【一時の軽い患難】 II コリント4:17

私たちの一時の軽い苦難は、それとは比べものにならないほど重い永遠の栄光を、私たちにもたらすのです。

■ローマの迫害、同胞からの迫害、遭難、災厄の数々、手塩にかけた兄弟姉妹の裏切り…。死んだ方がましと思えるような、数々の苦難を通過した、パウロの言の重さ。

→パウロすら軽いと言うのなら、私の苦難など、どれほど軽いものか!!



約束された  
栄光の重さとは  
比較にならない  
苦難の軽さ

## 【見えないものに】 II コリント4:18

私たちは見えるものではなく、**見えないもの**に目を留めます。見えるものは一時的であり、**見えないもの**は永遠に続くからです。

- パウロが確信していたのは、栄化のゴール。私もあなたも、完全な者とされる時が来る。復活の栄光の体を与えられ、神の王国に、ただ喜びをもって生きる時が来る。

**将来の約束が、試練を越える力になる。確信を深めて行こう**





#### IV. まとめと適用

落胆しない根拠を知ろう

## 落胆しない、パウロの根拠

- 涙ながらに書いた手紙を拒絶され、使徒性まで疑われたパウロ。落胆しなかったわけがない。四方八方から苦しめられ、途方に暮れ、迫害され、倒れた。
- 試練の苦難の中で、パウロは何度も倒れ、死を味わっただろう。
- 主にすぎるしか、どうにもこうにも道はない。絶望の底から主がパウロを引き上げ、道を拓かれ、次へと押し出された。
- 将来に約束された栄光の確信が、パウロにいつでも力を与えた。

## 預言者たちと使徒たちに身をもって教えられること

「私は信じています。それゆえに語ります。Ⅱコリ4:13」

- パウロが引用した詩篇116:10は、神の預言者の苦難の歌だ。主の言葉を世に告げる者には、避けがたい試練と苦難がある。
- 遣わされた先で、心破れて倒れてなお、注がれている力がある。粉々に打ち砕かれて、はじめて味わい知らされる主の恵みがある。
- 詩篇116篇もまた、将来の栄光をゴールに希望を語っている。預言者と使徒パウロが託した希望に、私たちも心を預けよう。

## 詩篇116:1～3

116:1 私は主を愛している。

【主】は私の声 私の願いを聞いてくださる。

116:2 主が私に耳を傾けてくださるので

私は生きていますかぎり 主を呼び求める。

116:3 死の網が私を取り巻き よみの恐怖が私を襲い

私は苦しみと悲しみの中にあつた。

## 詩篇116:1～

116:4 そのとき私は【主】の御名を呼び求めた。

「【主】よどうか 私のいのちを助け出してください。」

116:5 【主】は 情け深く正しい。

まことに私たちの神は あわれみ深い。

116:6 【主】は 浅はかな者をも守られる。

私がおとしめられたとき 私を救ってくださった。

116:7 私のたましいよ おまえの全きいこいに戻れ。

【主】がおまえに良くしてくださったのだから。

## 詩篇116:8～10

116:8 まことにあなたは 私のたましいを死から  
私の目を涙から

私の足をつまずきから 救い出してくださいました。

116:9 私は生ける者の地で 【主】の御前を歩みます。

116:10 私は信じています。まことに私は語ります。

私は大いに苦しんでいました。



## 詩篇116:11

116:11 この私は恐れ うろたえて言いました。

「人はだれでも偽りを言う」と。

116:12 主が私に良くしてくださったすべてに対し

私は【主】に何と応えたらよいのでしょうか。

116:13 私は救いの杯を掲げ 【主】の御名を呼び求めます。

116:14 私は自分の誓いを【主】に果たします。

御民すべての目の前で。

## 詩篇116:15~16

116:15 主の聖徒たちの死は【主】の目に尊い。

116:16 ああ【主】よ 私はまことにあなたのしもべです。

あなたのしもべ あなたのはしための子です。

あなたは私のかせを解いてくださいました。

## 詩篇116:15～

116:17 私はあなたに感謝のいけにえを献げ

【主】の御名を呼び求めます。

116:18 私は自分の誓いを【主】に果たします。

御民すべての目の前で。

116:19 【主】の家の大庭で。エルサレムよあなたのただ中で。

ハレルヤ。

## 福音と信じて救われた、その意味を噛みしめよう

- 信仰の告白は、主の前での誓いでもある。
- 「私の罪のために十字架にかけられ、葬られ、復活された」  
主イエス・キリストを信頼する。  
信頼するとは、預けること。死んで、生まれ変わった者として、  
主のしもべとして生きるという、主の御前での尊い誓いだ。
- 「救われた」とは、私のすべては、主の所有物となったということ。  
命すら、わたしのものではない。主のために用いるのは当然だ。

**主にささげる日々を送っているか。常に問われている。**

## ★ 御言葉に聴き、聴いたならば従おう ★

- 具体的になすべきことは、聖霊があなたに語ってくださる。  
逃れ得ない、目の前に突きつけられた課題が誰しもあるはずだ。
- 向き合えば必ず、打ち砕かれて倒れる。死ぬと言うのだから当然だ。  
それでも主に信頼して踏み出す者は、歩みのただ中で命を得る。
- 永遠の栄光は約束されているのに、何を恐れるのかと主は問われる。  
躊躇する思いもろとも、主の御手に預けて一步を踏み出そう。

**わたしのもとに来なさいと、招かれる主に応えよう**

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの<sup>つみ あがな</sup>罪を贖うために十字架<sup>じゅうじか</sup>で死<sup>し</sup>に、

②墓<sup>はか</sup>に葬<sup>ほうむ</sup>られ、

③三日目<sup>みっかめ</sup>に復活<sup>ふっかつ</sup>した<sup>しん</sup>こと、を信じます。

古い私は死んだ<sup>しんじつ</sup>といいながら、なお捕<sup>と</sup>らわれた私の心があります。

今、真実に、新しいいのちを生きる者としてください。

あなたが目の前に示されている、この課題<sup>かだい</sup>に向かって踏み出<sup>ふ</sup>します。

たお 倒れる私を引き上げ、栄光<sup>えいこう</sup>のゴールに導<sup>みちび</sup>かれる主に信<sup>しんらい</sup>頼します。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」

コリント

第二

④

# 「死んで生きる いのちの道」

コリント人への手紙Ⅱ 4章 落胆しないパウロの根拠

# アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. 主の栄光に照らされて 1～6節
- II. 死んで生きるいのち 7～12節
- III. ゴールを見据えて 13～18節
- IV. まとめと適用
  - 落胆しない根拠を知ろう





## コリントの手紙第二とは？

- **著者** …使徒パウロ。
- **年代** …第一(55年)の2年後、57年頃。
- **執筆場所** …コリントへの途上、ピリピ。
- **対象** …コリントのキリスト者たち  
(離散のユダヤ人と異邦人)
- **目的** …アフターケア。献金の促し。  
非難への弁明。再訪問の備え。



## パウロのコリント訪問

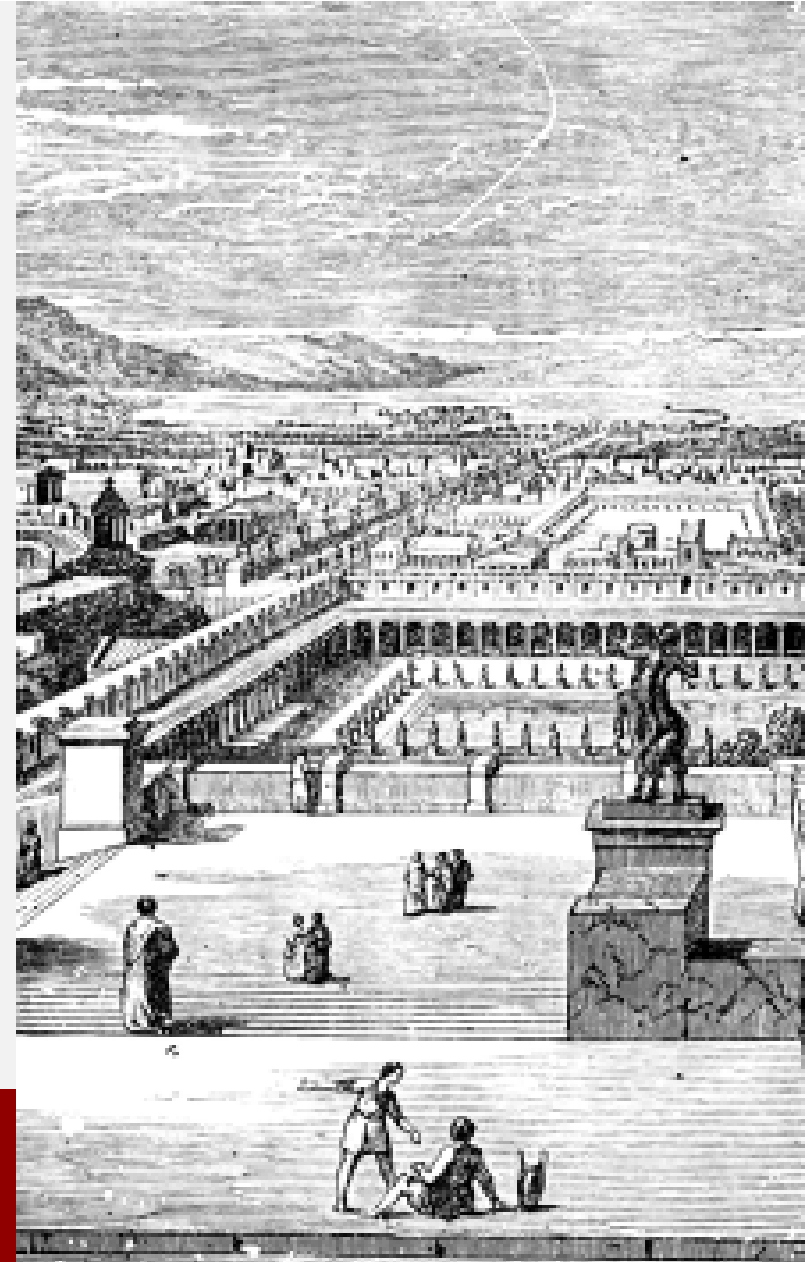
- ① 最初の訪問 (第二次旅行) ・ 1年半滞在 50年
- ② エペソ滞在中 (第三次旅行) 手紙 A を送付  
第一の手紙を送付 54～55年
- ③ 二度目の訪問 (Ⅱ コリ 13:2) 55年  
手紙 B (悲しみの手紙) を送付
- ④ コリントへの途上で (ピリピ?)  
テトスと合い、現状を聞く  
第二の手紙を送付 55～56年
- ⑤ 三度目の訪問 55～56年



## 【コリントとコリント教会】

- アカヤ州(ギリシャ南部)の州都  
国際都市。ローマ人、ギリシャ人…etc。  
かなりの規模のユダヤ人共同体も存在。
- **不道德**の町。少年への性愛、複数の愛人。  
神殿娼婦の存在。 **偶像崇拜**が蔓延。
- 異邦人信者が主流。偶像への警戒の薄さ。  
基本的教理からの逸脱。自由のはき違え。

第一の手紙の後に変化はあったのか？



# 使徒の福音宣教におけるコリントの地勢的重要性



**教会全体にも大きな影響が!! 放置しては進めない!!**



## 第二の手紙の特徴・テーマ

- 第一の手紙は、コリントの信徒もよく知っているはずの**信仰のイロハのイ**を確認するもの。
- 変化もあった一方で、パウロに強まる反感も。
  - ① グッドニュース…罪を犯した人の悔い改め
  - ② 残念なニュース…献金が集まっていない
  - ③ バッドニュース…パウロの使徒性への疑い
- **伝えるべきこと**は、第一の手紙に執筆済み。さらに加えるとすれば、**パウロ自身の思い**。  
→ **感情**が強く表れた手紙になっている。



リーダーの視点で  
読むべき手紙

パウロの思いをくみ取り、リーダーとして私の信仰を成長させよう



I. 主の栄光に照らされて

Ⅱコリント4章1～6節

## 【落胆しない】 Ⅱコリント4:1

こういうわけで\*、私たちは、**あわれみ**を受けてこの務めについているので、落胆することがありません\*。

\*前章の内容・栄化の希望があるがゆえに!!

\*落胆するしかないような状況であっても!!

■落胆しない根拠は、**主の憐れみ**。

ただ**主の憐れみ**のゆえに救われ、  
将来の栄化までもが約束されている。

➔使命に生きる信仰者の特権



コリントの夕景



## 【主の前での弁明】 II コリント4:2

かえって、恥となるような隠し事を捨て、ずる賢い歩みをせず、神のことばを曲げず、真理を明らかにすることで、神の御前で自分自身をすべての人の良心に推薦しています\*。

■ 浮き上がるのは、パウロへの批判

→ 恥ずかしくも裏で策略を練り、ずる賢く、神の言葉を曲げ、真理を隠している。

\* 自己推薦だ、という批判(3章)を踏まえて

■ 他者の権威ではなく、一人一人に内住される聖霊による権威によって使徒とされている。



コリント・会堂跡

## 【福音の覆い】 Ⅱコリント4:3～4

それでもなお私たちの福音に覆いが掛かっているとしたら、それは、滅び行く人々に対して覆いが掛かっているということです。

彼らの場合は、この世の神\*が、信じない者たちの思いを暗くし、神のかたちであるキリストの栄光に関わる**福音の光**を、輝かせないようにしているのです。

\*あらゆる偶像の背後には悪魔(サタン)が存在



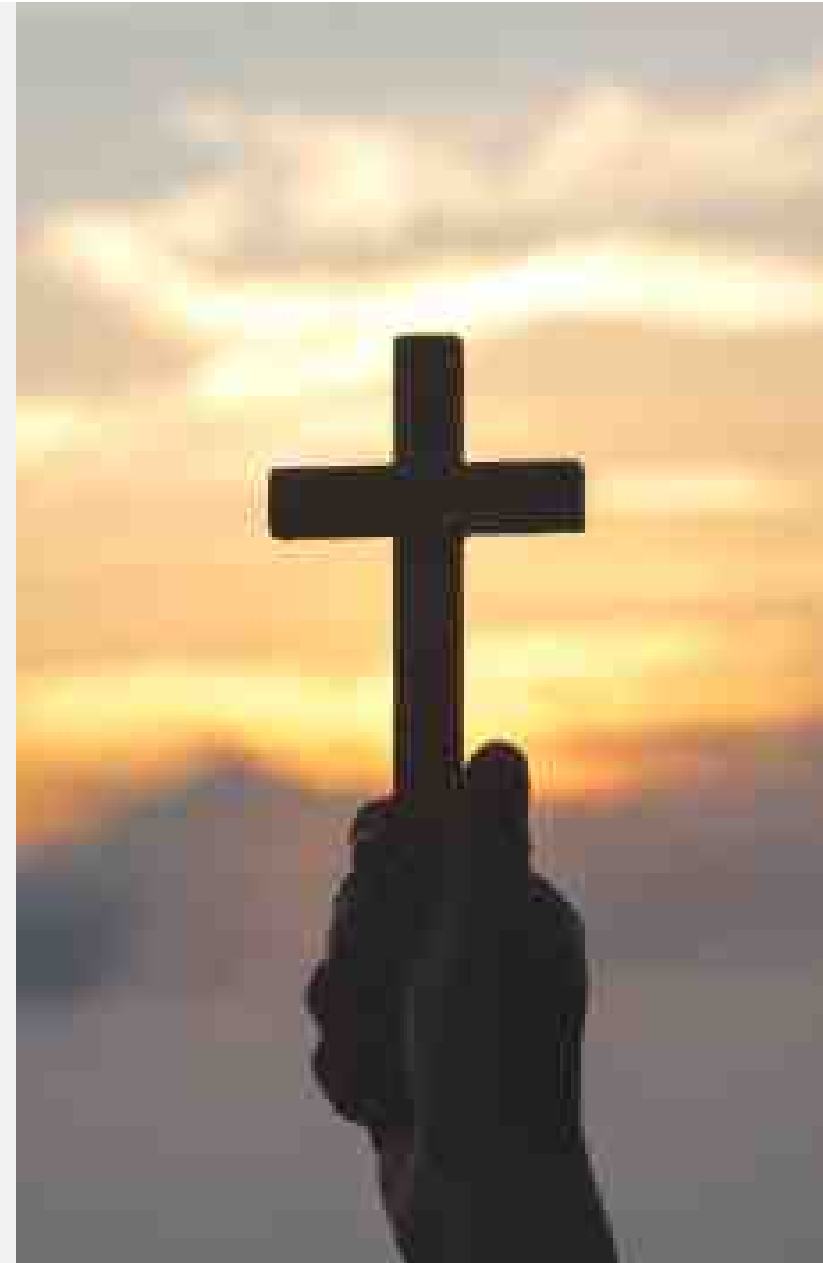
## 【大原則】 IIコリント4:5

私たちは自分自身を宣べ伝えているのではなく、**主なるイエス・キリストを宣べ伝えています**。私たち自身は、イエスのためにあなたがたに仕えるしもべ\*なのです。

■ 信仰者の力は、ただ**主イエスの福音**を宣べ伝えようとするところにのみある。

\*しもべ(奴隷)に力も主権もない。

すべては主人の権威によっている。



## 【栄光の主】 II コリント4:6

「闇の中から光が輝き出よ\*」と言われた神が、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識\*を輝かせるために、私たちの心を照らしてくださいましたのです。

\*「光あれ(創1:3)」

➔神の栄光(シャカイナグローリー)の顕現が、天地創造のはじめ。

\*聖書から私たちが学んでいること

■はじめから終わりまで、すべてのことは、生ける神の言葉である主イエスの内にある。





Ⅱ. 死んで生きるいのち Ⅱコリント4章7～12節

シナイ山

## 【土の器】 IIコリント4:7

私たちは、この宝を土の器\*の中に入れて  
います。それは、この測り知れない力が神の  
ものであって、私たちから出たものではない  
ことが明らかになるためです。

\*土の塵からできたのが人(創2:7)

- 主が使徒に選んだのは、漁師、徴税人、  
主イエスの迫害者で、裏切り者となった  
元パリサイ人。
- 主はご自身の栄光のため、  
弱い者を用い、力ある者を砕かれる。



## 【避けようのない苦難】 II コリント4:8～9

私たちは四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方に暮れますが、行き詰まることはありません。

迫害されますが、見捨てられることはありません。倒されますが、滅びません。

\* 信仰者には、避けようのないこと。

➡ 苦しめられ、途方に暮れ、迫害され、倒れる。

➡ しかし主は、必要を満たし、逃れの道を与え、見捨てず、滅ぼさない。



## 【主の死を帯びて】 II コリント4:10

私たちは、いつもイエスの死を身に帯びています。それはまた、イエスのいのちが私たちの身に現れるためです。

- 主イエスの福音を信じた瞬間、古い罪の私も、十字架で主と死んで、主と共に生まれ変わった。
- 古い私は死んだ。ならなぜ、死んだ私の感情を今も引きずるのか？

**新しい命を喜んで生きているのか？**

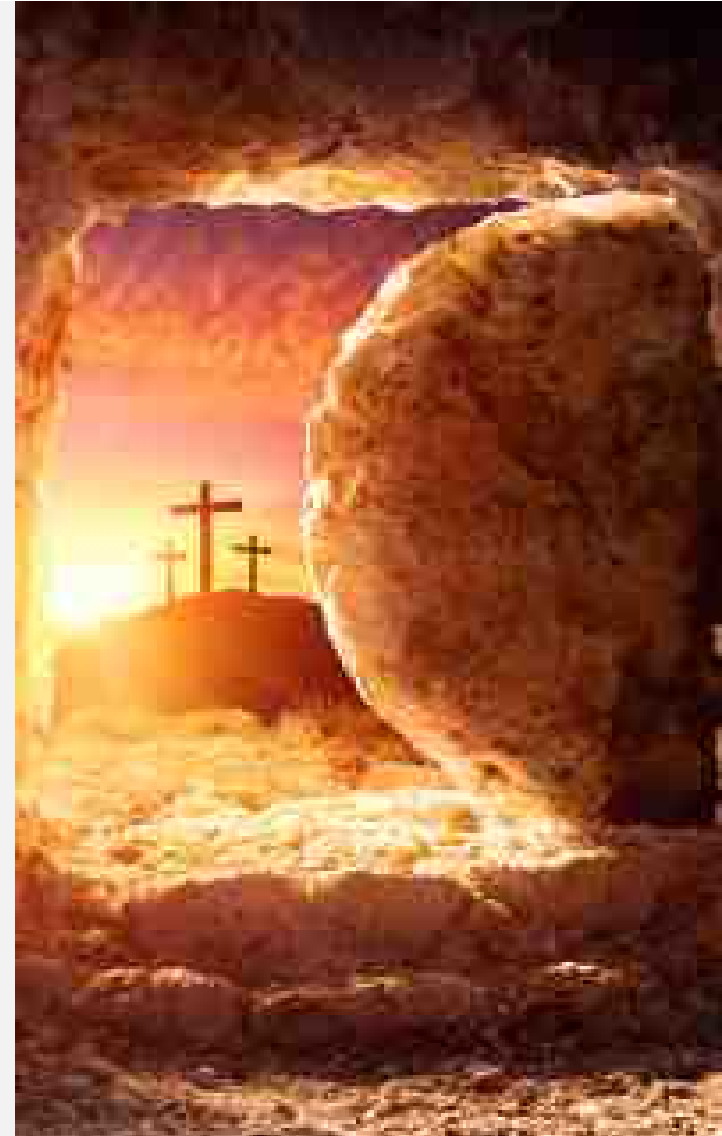




## 【イエスのいのちのため】 II コリント4:11

私たち生きている者は、イエスのために絶えず死に渡されています。それはまた、イエスのいのちが私たちの死ぬべき肉体において現れるためです。

- 古い私が死に、新しい私が生かされる。
- ➔ 信仰者の成長は、罪の自覚の深まり。  
浮かび上がる罪の私は、すでに死んだ者。  
死んだ者は、手放せばいいだけのこと。



**私たちは、死んでいく過程で、同時に生かされていく**

## 【死んで働くいのち】 Ⅱコリント4:12

こうして、死は私たちのうちに働き、いのちはあなたがたのうちに働いている\*のです。

\*高度な対句法で広がる意味

死・私たち → いのち・私たち ではなく、

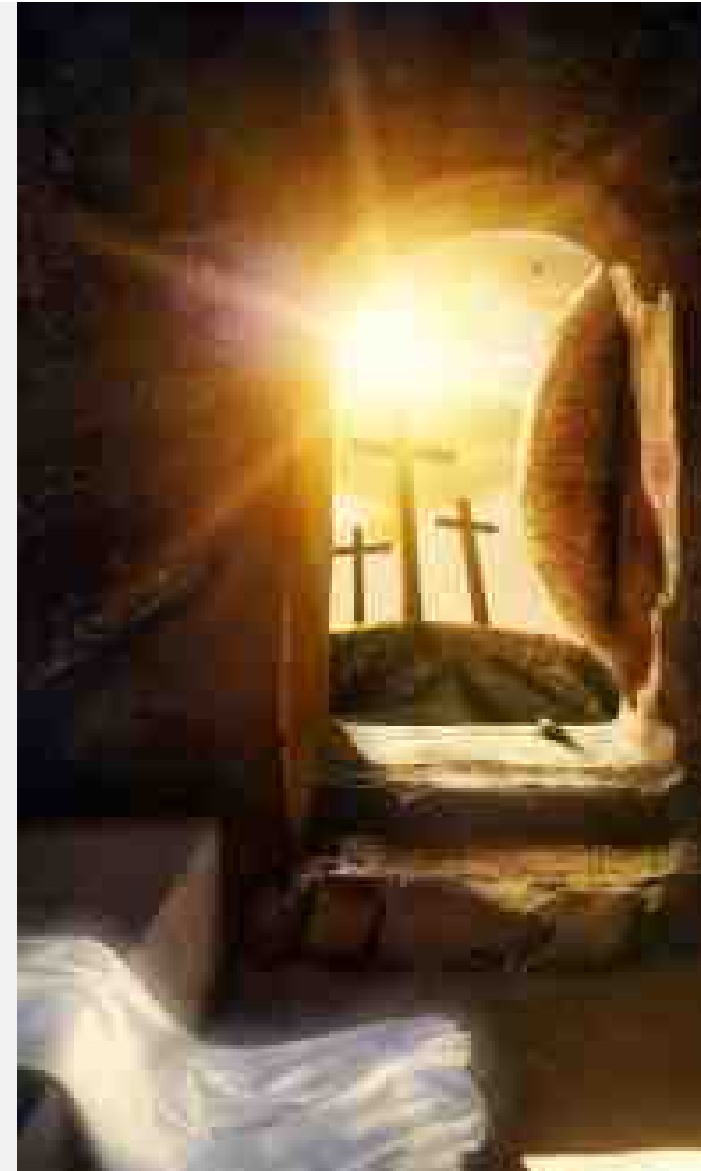
死・私たち → いのち・あなたがた

■死んで、生きるが、信仰者の原則

古い私が死んで、使命に生きるとき、

誰かが死んで、新しいいのちを生きる。

**死ぬべき私が死ねば、新しいいのちを生きる誰かが必ずいる**





Ⅲ. ゴールを見据えて      Ⅱコリント4章13～18節

## 【使徒パウロの覚悟】 II コリント4:13

「私は信じています。それゆえに語ります\*」と書かれているとおり、それと同じ信仰の霊\*を持っている私たちも、信じているゆえに語ります。

\*詩篇116:10からの引用

おそらくは迫害を経験した預言者の歌。

\*稀代の信仰者だった預言者も使徒たちも

迫害されながらも語らずにはいられなかった。

「使 7:52 あなたがたの先祖たちが迫害しなかった預言者が、だれかいたのでしょうか。」

…殉教の引き金となったステパノの言葉



## 【パウロの希望】 IIコリント4:14

主イエスをよみがえらせた方が、私たちをもイエスとともによみがえらせ、**あなたがたと一緒に御前に立たせてくださる\*こと**を知っているからです。

**\*パウロが見据えているのは将来の栄化**

■福音を信じた者から救いは失われない。

聖化の過程で紆余曲折を経ながらも、

最後には必ず、栄光の体を与えられ、

王の王、主イエスの御前に立たせられる。



## 【落胆しない】 II コリント4:15~16

すべてのことは、あなたがたのためであり、恵みがますます多くの人々に及んで感謝が満ちあふれ、神の栄光が現れるようになるためなのです。ですから、私たちは落胆しません。

たとえ**私たちの**外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています\*。

■ 落胆するしかない、コリントの現実があるが、福音を信じたがゆえの、主による希望がある。

\* 宣教に命を注いでいる者にしか言えない言葉。

日々死んでいると言えるほどに、主にすべてを献げているのか？



## 【一時の軽い患難】 II コリント4:17

私たちの一時の軽い苦難は、それとは比べものにならないほど重い永遠の栄光を、私たちにもたらすのです。

■ローマの迫害、同胞からの迫害、遭難、災厄の数々、手塩にかけた兄弟姉妹の裏切り…。死んだ方がましと思えるような、数々の苦難を通過した、パウロの言の重さ。

→パウロすら軽いと言うのなら、私の苦難など、どれほど軽いものか!!



約束された  
栄光の重さとは  
比較にならない  
苦難の軽さ

## 【見えないものに】 II コリント4:18

私たちは見えるものではなく、**見えないもの**に目を留めます。見えるものは一時的であり、**見えないもの**は永遠に続くからです。

- パウロが確信していたのは、栄化のゴール。私もあなたも、完全な者とされる時が来る。復活の栄光の体を与えられ、神の王国に、ただ喜びをもって生きる時が来る。

**将来の約束が、試練を越える力になる。確信を深めて行こう**







#### IV. まとめと適用

落胆しない根拠を知ろう

## 落胆しない、パウロの根拠

- 涙ながらに書いた手紙を拒絶され、使徒性まで疑われたパウロ。落胆しなかったわけがない。四方八方から苦しめられ、途方に暮れ、迫害され、倒れた。
- 試練の苦難の中で、パウロは何度も倒れ、死を味わっただろう。
- 主にすぎるしか、どうにもこうにも道はない。絶望の底から主がパウロを引き上げ、道を拓かれ、次へと押し出された。
- 将来に約束された栄光の確信が、パウロにいつでも力を与えた。

## 預言者たちと使徒たちに身をもって教えられること

「私は信じています。それゆえに語ります。Ⅱコリ4:13」

- パウロが引用した詩篇116:10は、神の預言者の苦難の歌だ。主の言葉を世に告げる者には、避けがたい試練と苦難がある。
- 遣わされた先で、心破れて倒れてなお、注がれている力がある。粉々に打ち砕かれて、はじめて味わい知らされる主の恵みがある。
- 詩篇116篇もまた、将来の栄光をゴールに希望を語っている。預言者と使徒パウロが託した希望に、私たちも心を預けよう。

## 詩篇116:1～3

116:1 私は主を愛している。

【主】は私の声 私の願いを聞いてくださる。

116:2 主が私に耳を傾けてくださるので

私は生きていくかぎり 主を呼び求める。

116:3 死の網が私を取り巻き よみの恐怖が私を襲い

私は苦しみと悲しみの中にあつた。

## 詩篇116:1～

116:4 そのとき私は【主】の御名を呼び求めた。

「【主】よどうか 私のいのちを助け出してください。」

116:5 【主】は 情け深く正しい。

まことに私たちの神は あわれみ深い。

116:6 【主】は 浅はかな者をも守られる。

私がおとしめられたとき 私を救ってくださった。

116:7 私のたましいよ おまえの全きいこいに戻れ。

【主】がおまえに良くしてくださったのだから。

## 詩篇116:8～10

116:8 まことにあなたは 私のたましいを死から  
私の目を涙から

私の足をつまずきから 救い出してくださいました。

116:9 私は生ける者の地で 【主】の御前を歩みます。

116:10 私は信じています。まことに私は語ります。

私は大いに苦しんでいました。

## 詩篇116:11

116:11 この私は恐れ うろたえて言いました。

「人はだれでも偽りを言う」と。

116:12 主が私に良くしてくださったすべてに対し

私は【主】に何と応えたらよいのでしょうか。

116:13 私は救いの杯を掲げ 【主】の御名を呼び求めます。

116:14 私は自分の誓いを【主】に果たします。

御民すべての目の前で。

## 詩篇116:15~16

116:15 主の聖徒たちの死は【主】の目に尊い。

116:16 ああ【主】よ 私はまことにあなたのしもべです。

あなたのしもべ あなたのはしための子です。

あなたは私のかせを解いてくださいました。



## 詩篇116:15～

116:17 私はあなたに感謝のいけにえを献げ

【主】の御名を呼び求めます。

116:18 私は自分の誓いを【主】に果たします。

御民すべての目の前で。

116:19 【主】の家の大庭で。エルサレムよあなたのただ中で。

ハレルヤ。

## 福音と信じて救われた、その意味を噛みしめよう

- 信仰の告白は、主の前での誓いでもある。
- 「私の罪のために十字架にかけられ、葬られ、復活された」  
主イエス・キリストを信頼する。  
信頼するとは、預けること。死んで、生まれ変わった者として、  
主のしもべとして生きるという、主の御前での尊い誓いだ。
- 「救われた」とは、私のすべては、主の所有物となったということ。  
命すら、わたしのものではない。主のために用いるのは当然だ。

**主にささげる日々を送っているか。常に問われている。**

## ★ 御言葉に聴き、聴いたならば従おう ★

- 具体的になすべきことは、聖霊があなたに語ってくださる。  
逃れ得ない、目の前に突きつけられた課題が誰しもあるはずだ。
- 向き合えば必ず、打ち砕かれて倒れる。死ぬと言うのだから当然だ。  
それでも主に信頼して踏み出す者は、歩みのただ中で命を得る。
- 永遠の栄光は約束されているのに、何を恐れるのかと主は問われる。  
躊躇する思いもろとも、主の御手に預けて一步を踏み出そう。

**わたしのもとに来なさいと、招かれる主に応えよう**

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの<sup>つみ あがな</sup>罪を贖うために十字架<sup>じゅうじか</sup>で死<sup>し</sup>に、

②墓<sup>はか</sup>に葬<sup>ほうむ</sup>られ、

③三日目<sup>みっかめ</sup>に復活<sup>ふっかつ</sup>した<sup>しん</sup>こと、を信じます。

古い私は死んだ<sup>しんじつ</sup>といいながら、なお捕<sup>と</sup>らわれた私の心があります。

今、真実に、新しいいのちを生きる者としてください。

あなたが目の前に示されている、この課題<sup>かだい</sup>に向かって踏み出<sup>ふ</sup>します。

たお倒れる私を引き上げ、栄光<sup>えいこう</sup>のゴールに導<sup>みちび</sup>かれる主に信<sup>しんらい</sup>頼します。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」

コリント

第二

④

# 「死んで生きる いのちの道」

コリント人への手紙Ⅱ 4章 落胆しないパウロの根拠

# アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. 主の栄光に照らされて 1～6節
- II. 死んで生きるいのち 7～12節
- III. ゴールを見据えて 13～18節
- IV. まとめと適用
  - 落胆しない根拠を知ろう



## コリントの手紙第二とは？

- **著者** …使徒パウロ。
- **年代** …第一(55年)の2年後、57年頃。
- **執筆場所** …コリントへの途上、ピリピ。
- **対象** …コリントのキリスト者たち  
(離散のユダヤ人と異邦人)
- **目的** …アフターケア。献金の促し。  
非難への弁明。再訪問の備え。



## パウロのコリント訪問

- ① 最初の訪問 (第二次旅行) ・ 1年半滞在 50年
- ② エペソ滞在中 (第三次旅行) 手紙 A を送付  
第一の手紙を送付 54～55年
- ③ 二度目の訪問 (Ⅱ コリ 13:2) 55年  
手紙 B (悲しみの手紙) を送付
- ④ コリントへの途上で (ピリピ?)  
テトスと合い、現状を聞く  
第二の手紙を送付 55～56年
- ⑤ 三度目の訪問 55～56年

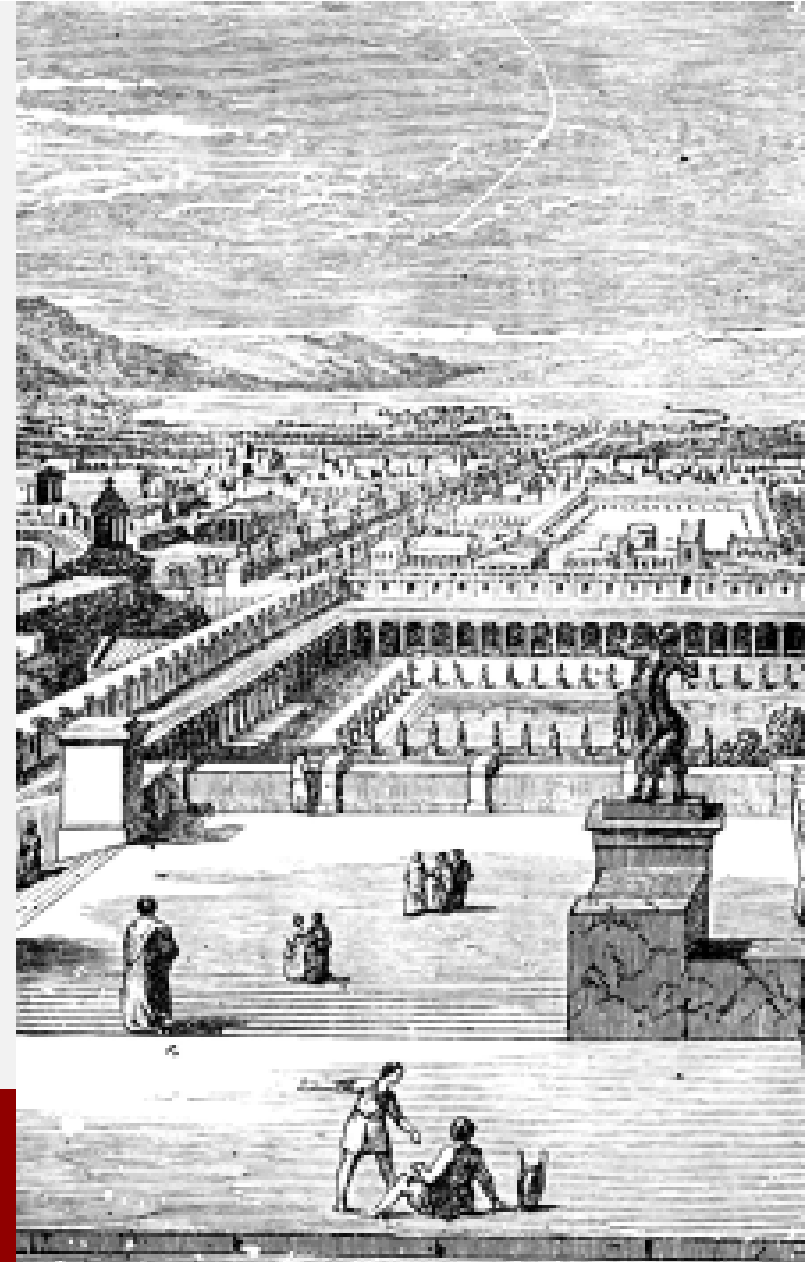




## 【コリントとコリント教会】

- アカヤ州(ギリシャ南部)の州都  
国際都市。ローマ人、ギリシャ人…etc。  
かなりの規模のユダヤ人共同体も存在。
- **不道德**の町。少年への性愛、複数の愛人。  
神殿娼婦の存在。 **偶像崇拜**が蔓延。
- 異邦人信者が主流。偶像への警戒の薄さ。  
基本的教理からの逸脱。自由のはき違え。

第一の手紙の後に変化はあったのか？



# 使徒の福音宣教におけるコリントの地勢的重要性



**教会全体にも大きな影響が!! 放置しては進めない!!**



## 第二の手紙の特徴・テーマ

- 第一の手紙は、コリントの信徒もよく知っているはずの**信仰のイロハのイ**を確認するもの。
- 変化もあった一方で、パウロに強まる反感も。
  - ① グッドニュース…罪を犯した人の悔い改め
  - ② 残念なニュース…献金が集まっていない
  - ③ バッドニュース…パウロの使徒性への疑い
- **伝えるべきこと**は、第一の手紙に執筆済み。さらに加えるとすれば、**パウロ自身の思い**。  
→ **感情**が強く表れた手紙になっている。



リーダーの視点で  
読むべき手紙

パウロの思いをくみ取り、リーダーとして私の信仰を成長させよう



I. 主の栄光に照らされて

Ⅱコリント4章1～6節

## 【落胆しない】 Ⅱコリント4:1

こういうわけで\*、私たちは、**あわれみ**を受けてこの務めについているので、落胆することがありません\*。

\*前章の内容・栄化の希望があるがゆえに!!

\*落胆するしかないような状況であっても!!

■落胆しない根拠は、**主の憐れみ**。

ただ**主の憐れみ**のゆえに救われ、  
将来の栄化までもが約束されている。

→**使命に生きる信仰者の特権**



コリントの夕景

## 【主の前での弁明】 II コリント4:2

かえって、恥となるような隠し事を捨て、ずる賢い歩みをせず、神のことばを曲げず、真理を明らかにすることで、神の御前で自分自身をすべての人の良心に推薦しています\*。

■ 浮き上がるのは、パウロへの批判

→ 恥ずかしくも裏で策略を練り、ずる賢く、神の言葉を曲げ、真理を隠している。

\* 自己推薦だ、という批判(3章)を踏まえて

■ 他者の権威ではなく、一人一人に内住される聖霊による権威によって使徒とされている。



コリント・会堂跡

## 【福音の覆い】 Ⅱコリント4:3～4

それでもなお私たちの福音に覆いが掛かっているとしたら、それは、滅び行く人々に対して覆いが掛かっているということです。

彼らの場合は、この世の神\*が、信じない者たちの思いを暗くし、神のかたちであるキリストの栄光に関わる**福音の光**を、輝かせないようにしているのです。

\*あらゆる偶像の背後には悪魔(サタン)が存在





## 【大原則】 IIコリント4:5

私たちは自分自身を宣べ伝えているのではなく、**主なるイエス・キリストを宣べ伝えています**。私たち自身は、イエスのためにあなたがたに仕えるしもべ\*なのです。

■ 信仰者の力は、ただ**主イエスの福音**を宣べ伝えようとするところにのみある。

\*しもべ(奴隷)に力も主権もない。

すべては主人の権威によっている。



## 【栄光の主】 II コリント4:6

「闇の中から光が輝き出よ\*」と言われた神が、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識\*を輝かせるために、私たちの心を照らしてくださいましたのです。

\*「光あれ(創1:3)」

➔神の栄光(シャカイナグローリー)の顕現が、天地創造のはじめ。

\*聖書から私たちが学んでいること

■はじめから終わりまで、すべてのことは、生ける神の言葉である主イエスの内にある。





Ⅱ. 死んで生きるいのち Ⅱコリント4章7～12節

シナイ山

## 【土の器】 IIコリント4:7

私たちは、この宝を土の器\*の中に入れて  
います。それは、この測り知れない力が神の  
ものであって、私たちから出たものではない  
ことが明らかになるためです。

\*土の塵からできたのが人(創2:7)

- 主が使徒に選んだのは、漁師、徴税人、  
主イエスの迫害者で、裏切り者となった  
元パリサイ人。
- 主はご自身の栄光のため、  
弱い者を用い、力ある者を砕かれる。



## 【避けようのない苦難】 Ⅱコリント4:8～9

私たちは四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方に暮れますが、行き詰まることはありません。

迫害されますが、見捨てられることはありません。倒されますが、滅びません。

\*信仰者には、避けようのないこと。

➡苦しめられ、途方に暮れ、迫害され、倒れる。

➡しかし主は、必要を満たし、逃れの道を与え、見捨てず、滅ぼさない。



## 【主の死を帯びて】 II コリント4:10

私たちは、いつもイエスの死を身に帯びています。それはまた、イエスのいのちが私たちの身に現れるためです。

- 主イエスの福音を信じた瞬間、古い罪の私も、十字架で主と死んで、主と共に生まれ変わった。
- 古い私は死んだ。ならなぜ、死んだ私の感情を今も引きずるのか？

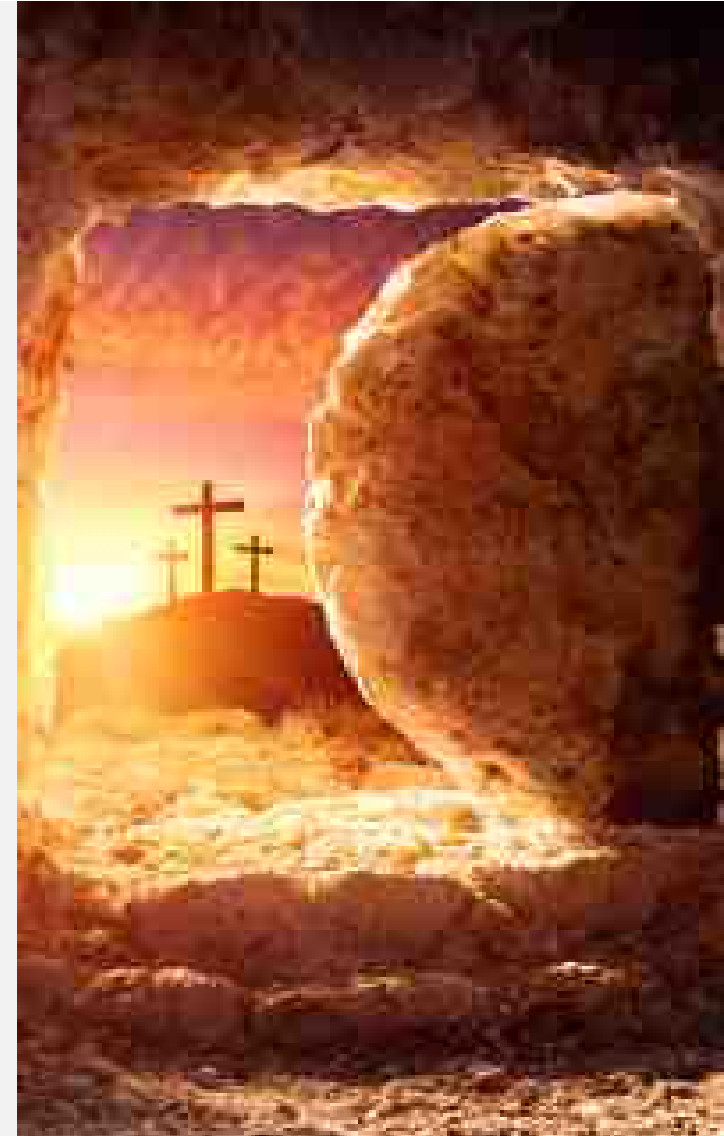
**新しい命を喜んで生きているのか？**



## 【イエスのいのちのため】 II コリント4:11

私たち生きている者は、イエスのために絶えず死に渡されています。それはまた、イエスのいのちが私たちの死ぬべき肉体において現れるためです。

- 古い私が死に、新しい私が生かされる。
  - ➔ 信仰者の成長は、罪の自覚の深まり。  
浮かび上がる罪の私は、すでに死んだ者。  
死んだ者は、手放せばいいだけのこと。



**私たちは、死んでいく過程で、同時に生かされていく**

## 【死んで働くいのち】 Ⅱコリント4:12

こうして、死は私たちのうちに働き、いのちはあなたがたのうちに働いている\*のです。

\*高度な対句法で広がる意味

死・私たち → いのち・私たち ではなく、

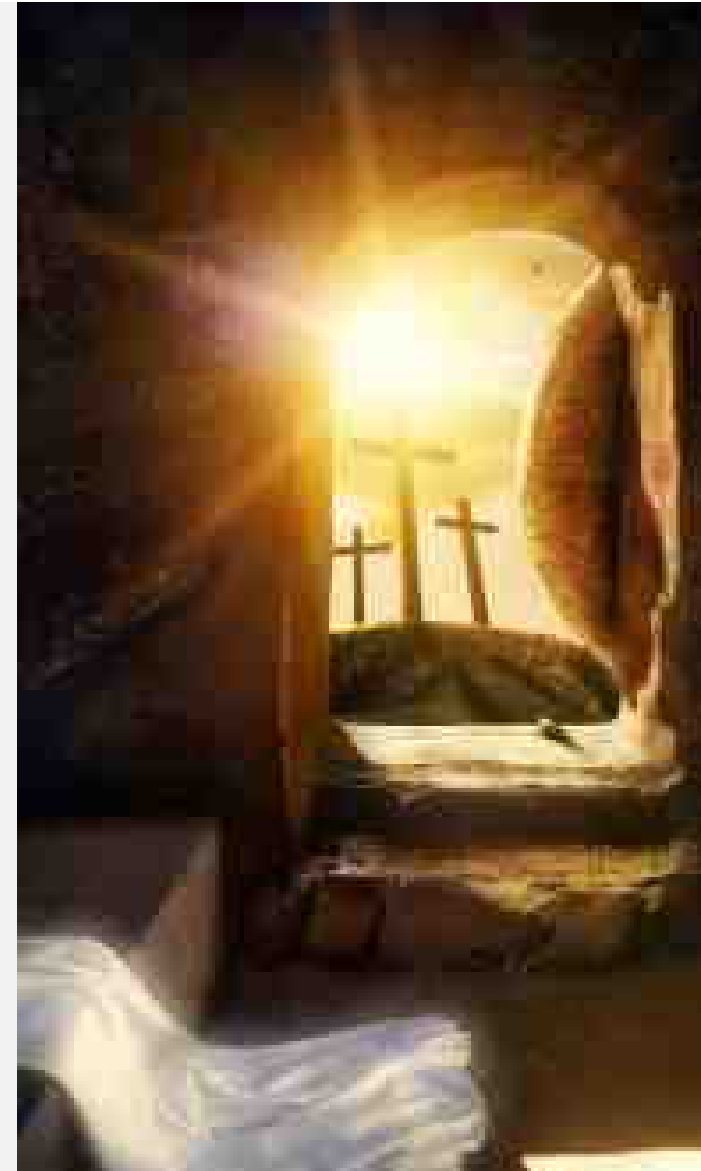
死・私たち → いのち・あなたがた

■死んで、生きるが、信仰者の原則

古い私が死んで、使命に生きるとき、

誰かが死んで、新しいいのちを生きる。

**死ぬべき私が死ねば、新しいいのちを生きる誰かが必ずいる**







Ⅲ. ゴールを見据えて Ⅱコリント4章13～18節

## 【使徒パウロの覚悟】 II コリント4:13

「私は信じています。それゆえに語ります\*」と書かれているとおり、それと同じ信仰の霊\*を持っている私たちも、信じているゆえに語ります。

\*詩篇116:10からの引用

おそらくは迫害を経験した預言者の歌。

\*稀代の信仰者だった預言者も使徒たちも

迫害されながらも語らずにはいられなかった。

「使 7:52 あなたがたの先祖たちが迫害しなかった預言者が、だれかいたのでしょうか。」

…殉教の引き金となったステパノの言葉



## 【パウロの希望】 IIコリント4:14

主イエスをよみがえらせた方が、私たちをもイエスとともによみがえらせ、**あなたがたと一緒に御前に立たせてくださる\*こと**を知っているからです。

**\*パウロが見据えているのは将来の栄化**

■福音を信じた者から救いは失われない。

聖化の過程で紆余曲折を経ながらも、

最後には必ず、栄光の体を与えられ、

王の王、主イエスの御前に立たせられる。



## 【落胆しない】 II コリント4:15~16

すべてのことは、あなたがたのためであり、恵みがますます多くの人々に及んで感謝が満ちあふれ、神の栄光が現れるようになるためなのです。ですから、私たちは落胆しません。

たとえ**私たちの**外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています\*。

■ 落胆するしかない、コリントの現実があるが、福音を信じたがゆえの、主による希望がある。

\* 宣教に命を注いでいる者にしか言えない言葉。

日々死んでいると言えるほどに、主にすべてを献げているのか？



## 【一時の軽い患難】 II コリント4:17

私たちの一時の軽い苦難は、それとは比べものにならないほど重い永遠の栄光を、私たちにもたらすのです。

■ローマの迫害、同胞からの迫害、遭難、災厄の数々、手塩にかけた兄弟姉妹の裏切り…。死んだ方がましと思えるような、数々の苦難を通過した、パウロの言の重さ。

→パウロすら軽いと言うのなら、私の苦難など、どれほど軽いものか!!



約束された  
栄光の重さとは  
比較にならない  
苦難の軽さ

## 【見えないものに】 II コリント4:18

私たちは見えるものではなく、**見えないもの**に目を留めます。見えるものは一時的であり、**見えないもの**は永遠に続くからです。

- パウロが確信していたのは、栄化のゴール。私もあなたも、完全な者とされる時が来る。復活の栄光の体を与えられ、神の王国に、ただ喜びをもって生きる時が来る。

**将来の約束が、試練を越える力になる。確信を深めて行こう**





## IV. まとめと適用

落胆しない根拠を知ろう

## 落胆しない、パウロの根拠

- 涙ながらに書いた手紙を拒絶され、使徒性まで疑われたパウロ。落胆しなかったわけがない。四方八方から苦しめられ、途方に暮れ、迫害され、倒れた。
- 試練の苦難の中で、パウロは何度も倒れ、死を味わっただろう。
- 主にすぎるしか、どうにもこうにも道はない。絶望の底から主がパウロを引き上げ、道を拓かれ、次へと押し出された。
- 将来に約束された栄光の確信が、パウロにいつでも力を与えた。



## 預言者たちと使徒たちに身をもって教えられること

「私は信じています。それゆえに語ります。Ⅱコリ4:13」

- パウロが引用した詩篇116:10は、神の預言者の苦難の歌だ。主の言葉を世に告げる者には、避けがたい試練と苦難がある。
- 遣わされた先で、心破れて倒れてなお、注がれている力がある。粉々に打ち砕かれて、はじめて味わい知らされる主の恵みがある。
- 詩篇116篇もまた、将来の栄光をゴールに希望を語っている。預言者と使徒パウロが託した希望に、私たちも心を預けよう。

## 詩篇116:1～3

116:1 私は主を愛している。

【主】は私の声 私の願いを聞いてくださる。

116:2 主が私に耳を傾けてくださるので

私は生きていますかぎり 主を呼び求める。

116:3 死の網が私を取り巻き よみの恐怖が私を襲い

私は苦しみと悲しみの中にあった。

## 詩篇116:1～

116:4 そのとき私は【主】の御名を呼び求めた。

「【主】よどうか 私のいのちを助け出してください。」

116:5 【主】は 情け深く正しい。

まことに私たちの神は あわれみ深い。

116:6 【主】は 浅はかな者をも守られる。

私がおとしめられたとき 私を救ってくださった。

116:7 私のたましいよ おまえの全きいこいに戻れ。

【主】がおまえに良くしてくださったのだから。

## 詩篇116:8～10

116:8 まことにあなたは 私のたましいを死から  
私の目を涙から

私の足をつまずきから 救い出してくださいました。

116:9 私は生ける者の地で 【主】の御前を歩みます。

116:10 私は信じています。まことに私は語ります。

私は大いに苦しんでいました。

## 詩篇116:11

116:11 この私は恐れ うろたえて言いました。

「人はだれでも偽りを言う」と。

116:12 主が私に良くしてくださったすべてに対し

私は【主】に何と応えたらよいのでしょうか。

116:13 私は救いの杯を掲げ 【主】の御名を呼び求めます。

116:14 私は自分の誓いを【主】に果たします。

御民すべての目の前で。

## 詩篇116:15~16

116:15 主の聖徒たちの死は【主】の目に尊い。

116:16 ああ【主】よ 私はまことにあなたのしもべです。

あなたのしもべ あなたのはしための子です。

あなたは私のかせを解いてくださいました。

## 詩篇116:15～

116:17 私はあなたに感謝のいけにえを献げ

【主】の御名を呼び求めます。

116:18 私は自分の誓いを【主】に果たします。

御民すべての目の前で。

116:19 【主】の家の大庭で。エルサレムよあなたのただ中で。

ハレルヤ。

## 福音と信じて救われた、その意味を噛みしめよう

- 信仰の告白は、主の前での誓いでもある。
- 「私の罪のために十字架にかけられ、葬られ、復活された」  
主イエス・キリストを信頼する。  
信頼するとは、預けること。死んで、生まれ変わった者として、  
主のしもべとして生きるという、主の御前での尊い誓いだ。
- 「救われた」とは、私のすべては、主の所有物となったということ。  
命すら、わたしのものではない。主のために用いるのは当然だ。

**主にささげる日々を送っているか。常に問われている。**



## ★ 御言葉に聴き、聴いたならば従おう ★

- 具体的になすべきことは、聖霊があなたに語ってくださる。  
逃れ得ない、目の前に突きつけられた課題が誰しもあるはずだ。
- 向き合えば必ず、打ち砕かれて倒れる。死ぬと言うのだから当然だ。  
それでも主に信頼して踏み出す者は、歩みのただ中で命を得る。
- 永遠の栄光は約束されているのに、何を恐れるのかと主は問われる。  
躊躇する思いもろとも、主の御手に預けて一步を踏み出そう。

**わたしのもとに来なさいと、招かれる主に応えよう**

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの<sup>つみ あがな</sup>罪を贖うために十字架<sup>じゅうじか</sup>で死<sup>し</sup>に、

②墓<sup>はか</sup>に葬<sup>ほうむ</sup>られ、

③三日目<sup>みっかめ</sup>に復活<sup>ふっかつ</sup>した<sup>しん</sup>こと、を信じます。

古い私は死んだ<sup>しんじつ</sup>といいながら、なお捕<sup>と</sup>らわれた私の心があります。

今、真実に、新しいいのちを生きる者としてください。

あなたが目の前に示されている、この課題<sup>かだい</sup>に向かって踏み出<sup>ふ</sup>します。

たお倒れる私を引き上げ、栄光<sup>えいこう</sup>のゴールに導<sup>みちび</sup>かれる主に信<sup>しんらい</sup>頼します。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」

コリント

第二

④

# 「死んで生きる いのちの道」

コリント人への手紙Ⅱ 4章 落胆しないパウロの根拠

# アウトライン

## 0. イントロダクション

I. 主の栄光に照らされて 1~6節

II. 死んで生きるいのち 7~12節

III. ゴールを見据えて 13~18節

## IV. まとめと適用

落胆しない根拠を知ろう



## コリントの手紙第二とは？

- **著者** …使徒パウロ。
- **年代** …第一(55年)の2年後、57年頃。
- **執筆場所** …コリントへの途上、ピリピ。
- **対象** …コリントのキリスト者たち  
(離散のユダヤ人と異邦人)
- **目的** …アフターケア。献金の促し。  
非難への弁明。再訪問の備え。



## パウロのコリント訪問

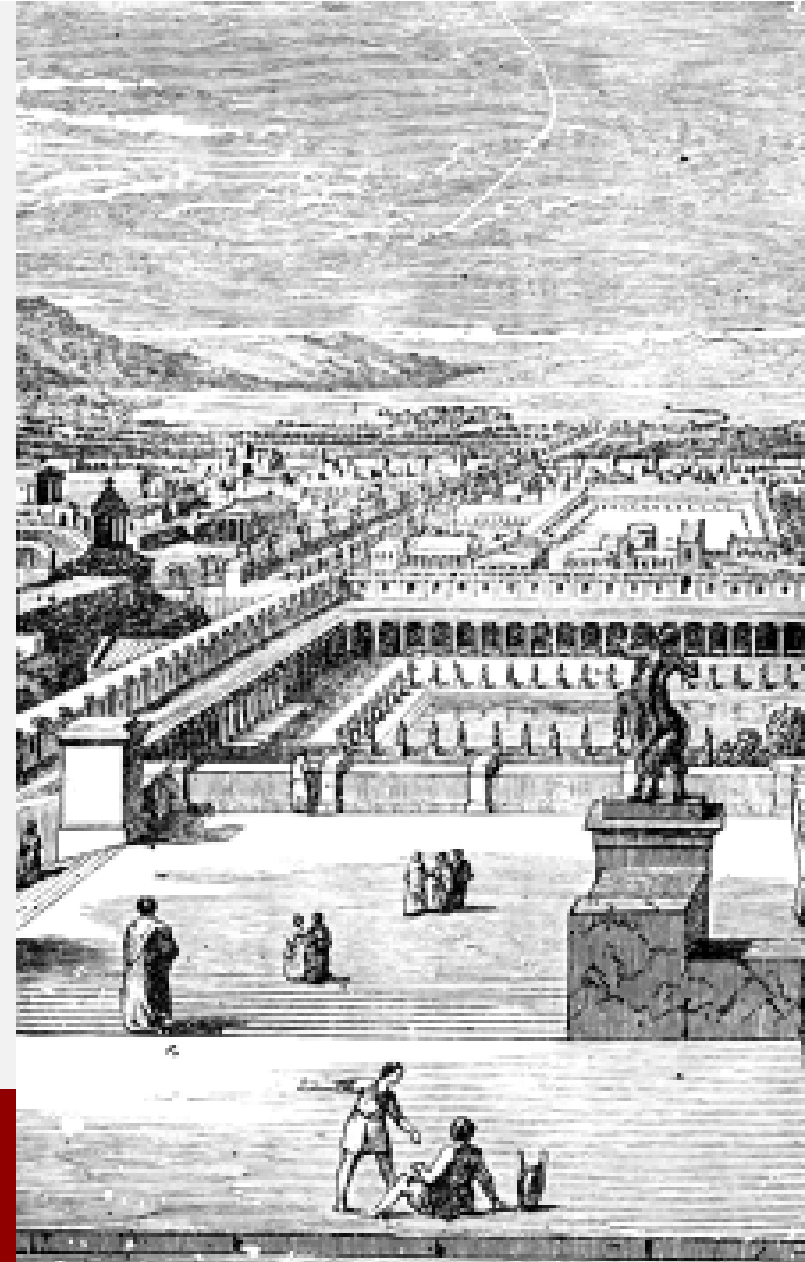
- ① 最初の訪問 (第二次旅行) ・ 1年半滞在 50年
- ② エペソ滞在中 (第三次旅行) 手紙 A を送付  
第一の手紙を送付 54～55年
- ③ 二度目の訪問 (Ⅱ コリ 13:2) 55年  
手紙 B (悲しみの手紙) を送付
- ④ コリントへの途上で (ピリピ?)  
テトスと合い、現状を聞く  
第二の手紙を送付 55～56年
- ⑤ 三度目の訪問 55～56年



## 【コリントとコリント教会】

- アカヤ州(ギリシャ南部)の州都  
国際都市。ローマ人、ギリシャ人…etc。  
かなりの規模のユダヤ人共同体も存在。
- **不道德**の町。少年への性愛、複数の愛人。  
神殿娼婦の存在。 **偶像崇拜**が蔓延。
- 異邦人信者が主流。偶像への警戒の薄さ。  
基本的教理からの逸脱。自由のはき違え。

第一の手紙の後に変化はあったのか？



# 使徒の福音宣教におけるコリントの地勢的重要性



**教会全体にも大きな影響が!! 放置しては進めない!!**





## 第二の手紙の特徴・テーマ

- 第一の手紙は、コリントの信徒もよく知っているはずの**信仰のイロハのイ**を確認するもの。
- 変化もあった一方で、パウロに強まる反感も。
  - ① グッドニュース…罪を犯した人の悔い改め
  - ② 残念なニュース…献金が集まっていない
  - ③ バッドニュース…パウロの使徒性への疑い
- **伝えるべきこと**は、第一の手紙に執筆済み。さらに加えるとすれば、**パウロ自身の思い**。  
→ **感情**が強く表れた手紙になっている。



リーダーの視点で  
読むべき手紙

パウロの思いをくみ取り、リーダーとして私の信仰を成長させよう



I. 主の栄光に照らされて

Ⅱコリント4章1～6節

## 【落胆しない】 Ⅱコリント4:1

こういうわけで\*、私たちは、**あわれみ**を受けてこの務めについているので、落胆することがありません\*。

\*前章の内容・栄化の希望があるがゆえに!!

\*落胆するしかないような状況であっても!!

■落胆しない根拠は、**主の憐れみ**。

ただ**主の憐れみ**のゆえに救われ、  
将来の栄化までもが約束されている。

→使命に生きる信仰者の特権



コリントの夕景

## 【主の前での弁明】 II コリント4:2

かえって、恥となるような隠し事を捨て、ずる賢い歩みをせず、神のことばを曲げず、真理を明らかにすることで、神の御前で自分自身をすべての人の良心に推薦しています\*。

■ 浮き上がるのは、パウロへの批判

→ 恥ずかしくも裏で策略を練り、ずる賢く、神の言葉を曲げ、真理を隠している。

\* 自己推薦だ、という批判(3章)を踏まえて

■ 他者の権威ではなく、一人一人に内住される聖霊による権威によって使徒とされている。



コリント・会堂跡

## 【福音の覆い】 Ⅱコリント4:3～4

それでもなお私たちの福音に覆いが掛かっているとしたら、それは、滅び行く人々に対して覆いが掛かっているということです。

彼らの場合は、この世の神\*が、信じない者たちの思いを暗くし、神のかたちであるキリストの栄光に関わる**福音の光**を、輝かせないようにしているのです。

\*あらゆる偶像の背後には悪魔(サタン)が存在



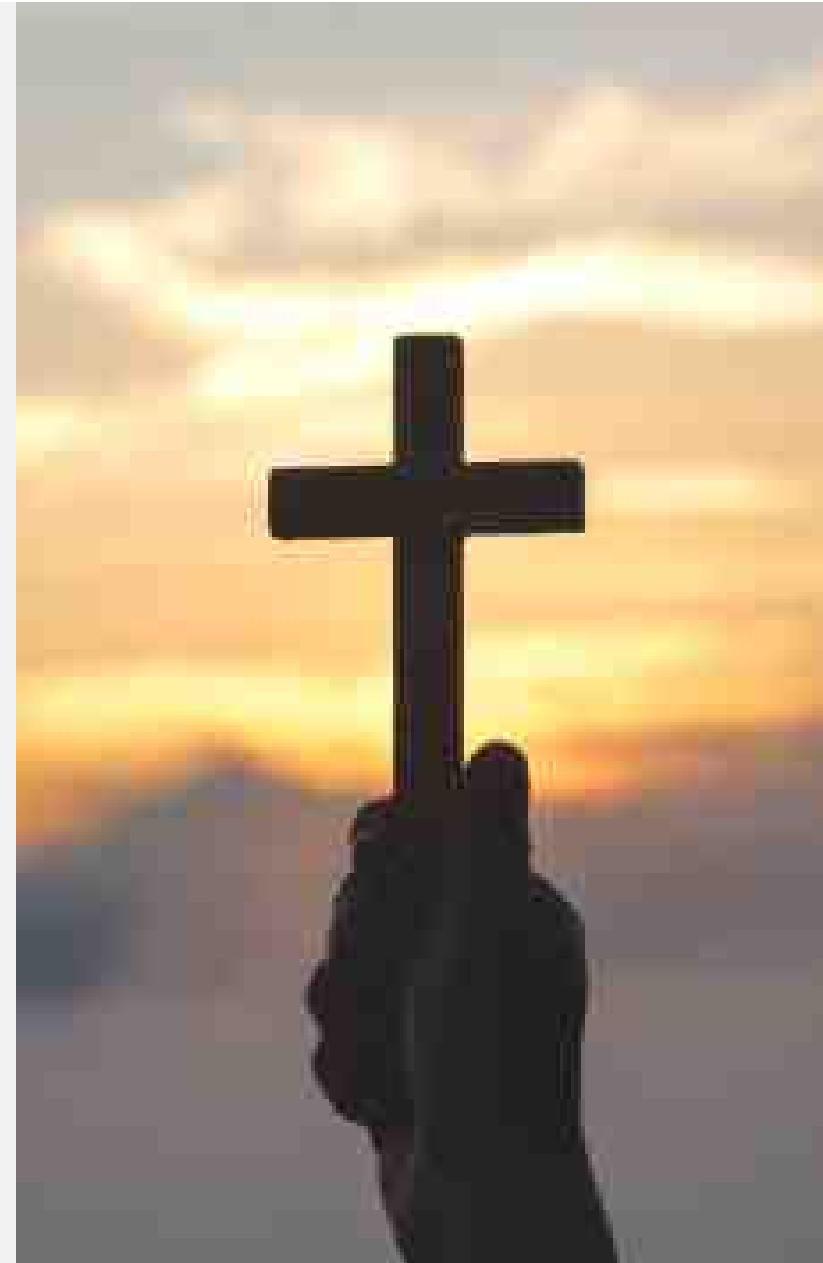
## 【大原則】 IIコリント4:5

私たちは自分自身を宣べ伝えているのではなく、**主なるイエス・キリストを宣べ伝えています**。私たち自身は、イエスのためにあなたがたに仕えるしもべ\*なのです。

■ 信仰者の力は、ただ**主イエスの福音**を宣べ伝えようとするところにのみある。

\*しもべ(奴隷)に力も主権もない。

すべては主人の権威によっている。



## 【栄光の主】 II コリント4:6

「闇の中から光が輝き出よ\*」と言われた神が、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識\*を輝かせるために、私たちの心を照らしてくださいましたのです。

\*「光あれ(創1:3)」

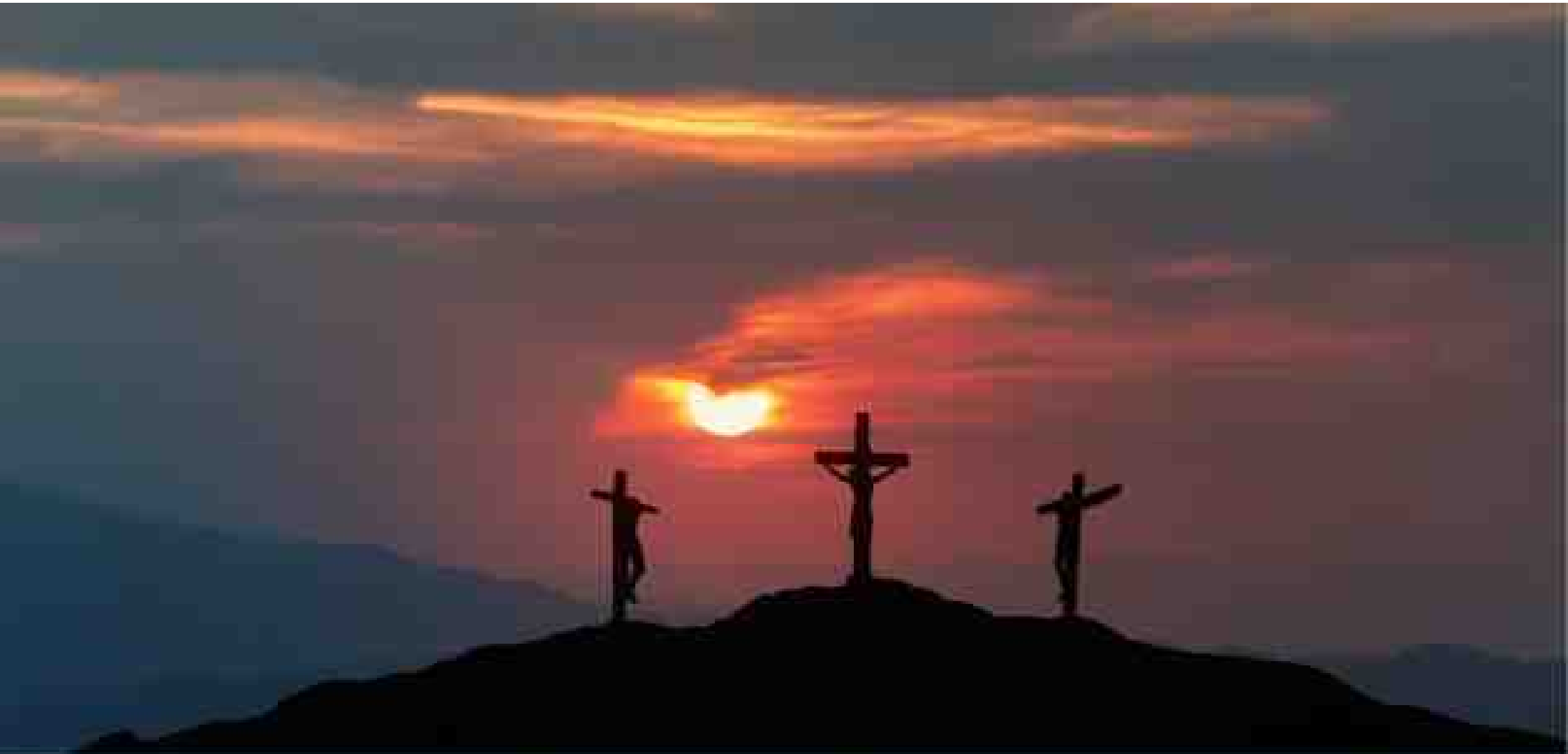
➔神の栄光(シャカイナグローリー)の  
顕現が、天地創造のはじめ。

\*聖書から私たちが学んでいること

■はじめから終わりまで、すべてのことは、  
生ける神の言葉である主イエスの内にある。







Ⅱ. 死んで生きるいのち Ⅱコリント4章7～12節

## 【土の器】 IIコリント4:7

私たちは、この宝を土の器\*の中に入れて  
います。それは、この測り知れない力が神の  
ものであって、私たちから出たものではない  
ことが明らかになるためです。

\*土の塵からできたのが人(創2:7)

■主が使徒に選んだのは、漁師、徴税人、  
主イエスの迫害者で、裏切り者となった  
元パリサイ人。

■主はご自身の栄光のため、  
弱い者を用い、力ある者を砕かれる。



## 【避けようのない苦難】 II コリント4:8~9

私たちは四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方に暮れますが、行き詰まることはありません。

迫害されますが、見捨てられることはありません。倒されますが、滅びません。

\* 信仰者には、避けようのないこと。

➡ 苦しめられ、途方に暮れ、迫害され、倒れる。

➡ しかし主は、必要を満たし、逃れの道を与え、見捨てず、滅ぼさない。



## 【主の死を帯びて】 II コリント4:10

私たちは、いつもイエスの死を身に帯びています。それはまた、イエスのいのちが私たちの身に現れるためです。

- 主イエスの福音を信じた瞬間、古い罪の私も、十字架で主と死んで、主と共に生まれ変わった。
- 古い私は死んだ。ならなぜ、死んだ私の感情を今も引きずるのか？

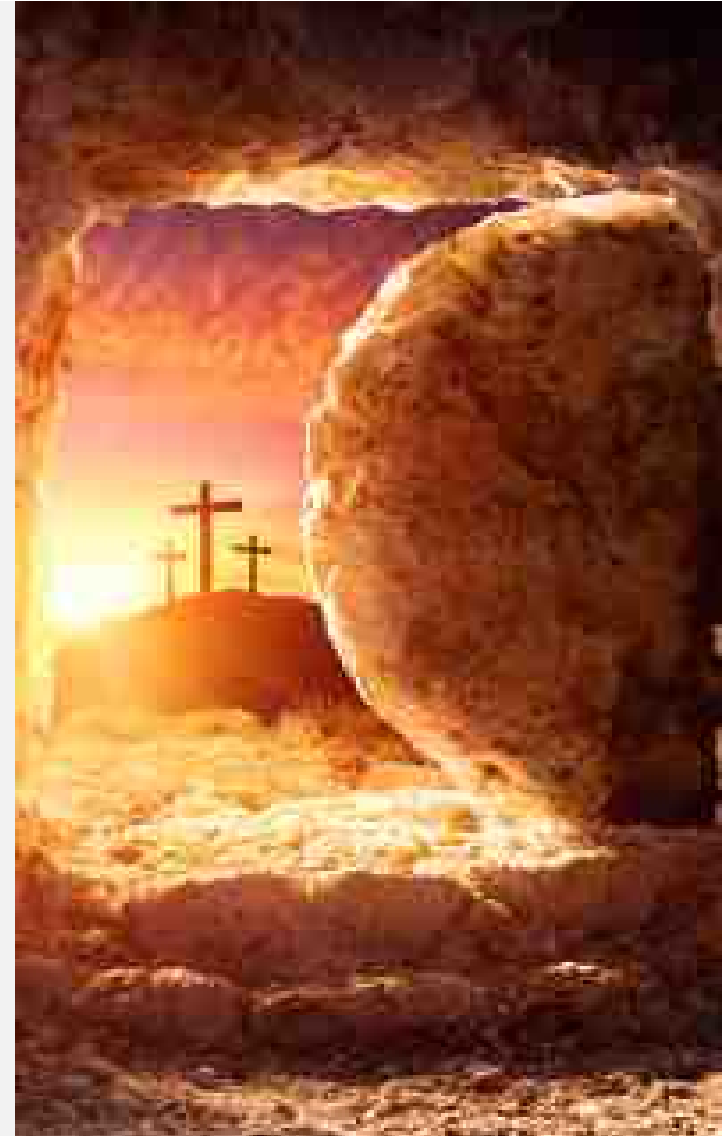
**新しい命を喜んで生きているのか？**



## 【イエスのいのちのため】 II コリント4:11

私たち生きている者は、イエスのために絶えず死に渡されています。それはまた、イエスのいのちが私たちの死ぬべき肉体において現れるためです。

- 古い私が死に、新しい私が生かされる。
- ➔ 信仰者の成長は、罪の自覚の深まり。  
浮かび上がる罪の私は、すでに死んだ者。  
死んだ者は、手放せばいいだけのこと。



**私たちは、死んでいく過程で、同時に生かされていく**

## 【死んで働くいのち】 Ⅱコリント4:12

こうして、死は私たちのうちに働き、いのちはあなたがたのうちに働いている\*のです。

\*高度な対句法で広がる意味

死・私たち → いのち・私たち ではなく、

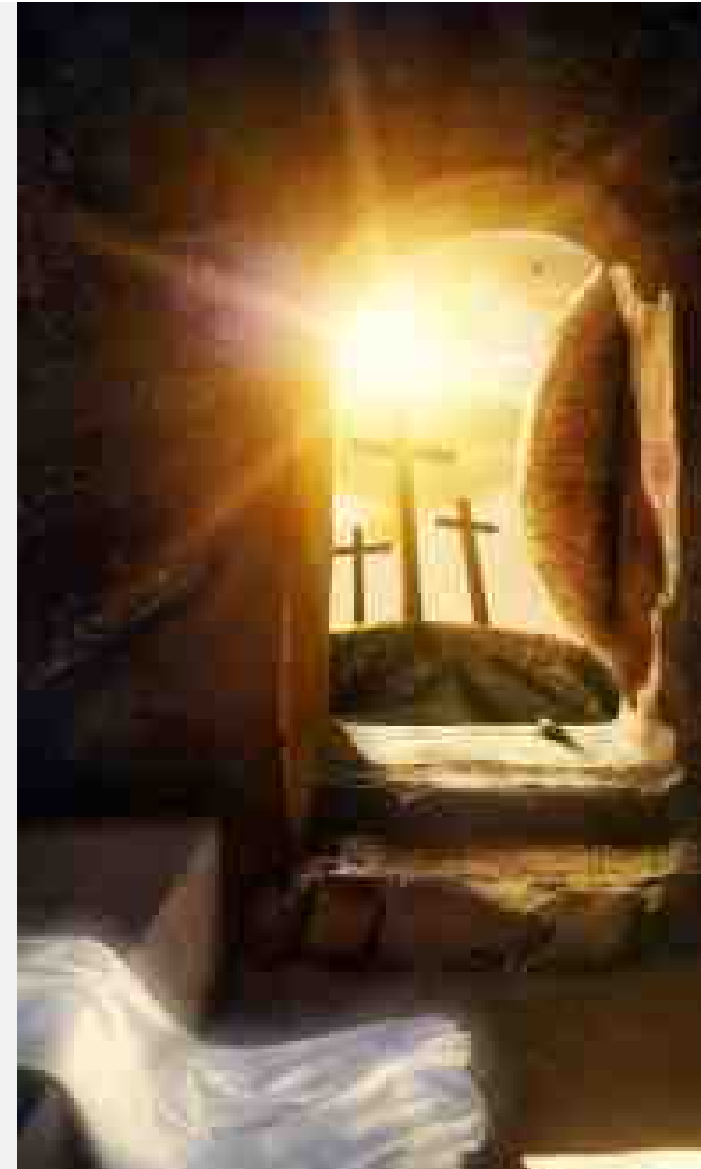
死・私たち → いのち・あなたがた

■死んで、生きるが、信仰者の原則

古い私が死んで、使命に生きるとき、

誰かが死んで、新しいいのちを生きる。

**死ぬべき私が死ねば、新しいいのちを生きる誰かが必ずいる**





Ⅲ. ゴールを見据えて Ⅱコリント4章13～18節

## 【使徒パウロの覚悟】 II コリント4:13

「私は信じています。それゆえに語ります\*」と書かれているとおり、それと同じ信仰の霊\*を持っている私たちも、信じているゆえに語ります。

\*詩篇116:10からの引用

おそらくは迫害を経験した預言者の歌。

\*稀代の信仰者だった預言者も使徒たちも

迫害されながらも語らずにはいられなかった。

「使 7:52 あなたがたの先祖たちが迫害しなかった預言者が、だれかいたのでしょうか。」

…殉教の引き金となったステパノの言葉





## 【パウロの希望】 IIコリント4:14

主イエスをよみがえらせた方が、私たちをもイエスとともによみがえらせ、**あなたがたと一緒に御前に立たせてくださる\*こと**を知っているからです。

**\*パウロが見据えているのは将来の栄化**

■福音を信じた者から救いは失われない。

聖化の過程で紆余曲折を経ながらも、

最後には必ず、栄光の体を与えられ、

王の王、主イエスの御前に立たせられる。



## 【落胆しない】 II コリント4:15~16

すべてのことは、あなたがたのためであり、恵みがますます多くの人々に及んで感謝が満ちあふれ、神の栄光が現れるようになるためなのです。ですから、私たちは落胆しません。

たとえ**私たちの**外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています\*。

■ 落胆するしかない、コリントの現実があるが、福音を信じたがゆえの、主による希望がある。

\* 宣教に命を注いでいる者にしか言えない言葉。

日々死んでいると言えるほどに、主にすべてを献げているのか？



## 【一時の軽い患難】 II コリント4:17

私たちの一時の軽い苦難は、それとは比べものにならないほど重い永遠の栄光を、私たちにもたらすのです。

■ローマの迫害、同胞からの迫害、遭難、災厄の数々、手塩にかけた兄弟姉妹の裏切り…。死んだ方がましと思えるような、数々の苦難を通過した、パウロの言の重さ。

➡パウロすら軽いと言うのなら、私の苦難など、どれほど軽いものか!!



約束された  
栄光の重さとは  
比較にならない  
苦難の軽さ

## 【見えないものに】 II コリント4:18

私たちは見えるものではなく、**見えないもの**に目を留めます。見えるものは一時的であり、**見えないもの**は永遠に続くからです。

- パウロが確信していたのは、栄化のゴール。私もあなたも、完全な者とされる時が来る。復活の栄光の体を与えられ、神の王国に、ただ喜びをもって生きる時が来る。

**将来の約束が、試練を越える力になる。確信を深めて行こう**





#### IV. まとめと適用

落胆しない根拠を知ろう

## 落胆しない、パウロの根拠

- 涙ながらに書いた手紙を拒絶され、使徒性まで疑われたパウロ。落胆しなかったわけがない。四方八方から苦しめられ、途方に暮れ、迫害され、倒れた。
- 試練の苦難の中で、パウロは何度も倒れ、死を味わっただろう。
- 主にすぎるしか、どうにもこうにも道はない。絶望の底から主がパウロを引き上げ、道を拓かれ、次へと押し出された。
- 将来に約束された栄光の確信が、パウロにいつでも力を与えた。

## 預言者たちと使徒たちに身をもって教えられること

「私は信じています。それゆえに語ります。Ⅱコリ4:13」

- パウロが引用した詩篇116:10は、神の預言者の苦難の歌だ。主の言葉を世に告げる者には、避けがたい試練と苦難がある。
- 遣わされた先で、心破れて倒れてなお、注がれている力がある。粉々に打ち砕かれて、はじめて味わい知らされる主の恵みがある。
- 詩篇116篇もまた、将来の栄光をゴールに希望を語っている。預言者と使徒パウロが託した希望に、私たちも心を預けよう。

## 詩篇116:1～3

116:1 私は主を愛している。

【主】は私の声 私の願いを聞いてくださる。

116:2 主が私に耳を傾けてくださるので

私は生きていくかぎり 主を呼び求める。

116:3 死の網が私を取り巻き よみの恐怖が私を襲い

私は苦しみと悲しみの中にあつた。



## 詩篇116:1～

116:4 そのとき私は【主】の御名を呼び求めた。

「【主】よどうか 私のいのちを助け出してください。」

116:5 【主】は 情け深く正しい。

まことに私たちの神は あわれみ深い。

116:6 【主】は 浅はかな者をも守られる。

私がおとしめられたとき 私を救ってくださった。

116:7 私のたましいよ おまえの全きいこいに戻れ。

【主】がおまえに良くしてくださったのだから。

## 詩篇116:8～10

116:8 まことにあなたは 私のたましいを死から  
私の目を涙から

私の足をつまづきから 救い出してくださいました。

116:9 私は生ける者の地で 【主】の御前を歩みます。

116:10 私は信じています。まことに私は語ります。

私は大いに苦しんでいました。

## 詩篇116:11

116:11 この私は恐れ うろたえて言いました。

「人はだれでも偽りを言う」と。

116:12 主が私に良くしてくださったすべてに対し

私は【主】に何と応えたらよいのでしょうか。

116:13 私は救いの杯を掲げ 【主】の御名を呼び求めます。

116:14 私は自分の誓いを【主】に果たします。

御民すべての目の前で。

## 詩篇116:15~16

116:15 主の聖徒たちの死は【主】の目に尊い。

116:16 ああ【主】よ 私はまことにあなたのしもべです。

あなたのしもべ あなたのはしための子です。

あなたは私のかせを解いてくださいました。

## 詩篇116:15～

116:17 私はあなたに感謝のいけにえを献げ

【主】の御名を呼び求めます。

116:18 私は自分の誓いを【主】に果たします。

御民すべての目の前で。

116:19 【主】の家の大庭で。エルサレムよあなたのただ中で。

ハレルヤ。

## 福音と信じて救われた、その意味を噛みしめよう

- 信仰の告白は、主の前での誓いでもある。
- 「私の罪のために十字架にかけられ、葬られ、復活された」  
主イエス・キリストを信頼する。  
信頼するとは、預けること。死んで、生まれ変わった者として、  
主のしもべとして生きるという、主の御前での尊い誓いだ。
- 「救われた」とは、私のすべては、主の所有物となったということ。  
命すら、わたしのものではない。主のために用いるのは当然だ。

**主にささげる日々を送っているか。常に問われている。**

## ★ 御言葉に聴き、聴いたならば従おう ★

- 具体的になすべきことは、聖霊があなたに語ってくださる。  
逃れ得ない、目の前に突きつけられた課題が誰しもあるはずだ。
- 向き合えば必ず、打ち砕かれて倒れる。死ぬと言うのだから当然だ。  
それでも主に信頼して踏み出す者は、歩みのただ中で命を得る。
- 永遠の栄光は約束されているのに、何を恐れるのかと主は問われる。  
躊躇する思いもろとも、主の御手に預けて一步を踏み出そう。

**わたしのもとに来なさいと、招かれる主に応えよう**

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの<sup>つみ あがな</sup>罪を贖うために十字架<sup>じゅうじか</sup>で死<sup>し</sup>に、

②墓<sup>はか</sup>に葬<sup>ほうむ</sup>られ、

③三日目<sup>みっかめ</sup>に復活<sup>ふっかつ</sup>した<sup>しん</sup>こと、を信じます。

古い私は死んだ<sup>しんじつ</sup>といいながら、なお捕<sup>と</sup>らわれた私の心があります。

今、真実に、新しいいのちを生きる者としてください。

あなたが目の前に示されている、この課題<sup>かだい</sup>に向かって踏み出<sup>ふ</sup>します。

たお倒れる私を引き上げ、栄光<sup>えいこう</sup>のゴールに導<sup>みちび</sup>かれる主に信<sup>しんらい</sup>頼します。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」



コリント

第二

④

# 「死んで生きる いのちの道」

コリント人への手紙Ⅱ 4章 落胆しないパウロの根拠

# アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. 主の栄光に照らされて 1～6節
- II. 死んで生きるいのち 7～12節
- III. ゴールを見据えて 13～18節
- IV. まとめと適用
  - 落胆しない根拠を知ろう



## コリントの手紙第二とは？

- **著者** …使徒パウロ。
- **年代** …第一(55年)の2年後、57年頃。
- **執筆場所** …コリントへの途上、ピリピ。
- **対象** …コリントのキリスト者たち  
(離散のユダヤ人と異邦人)
- **目的** …アフターケア。献金の促し。  
非難への弁明。再訪問の備え。



## パウロのコリント訪問

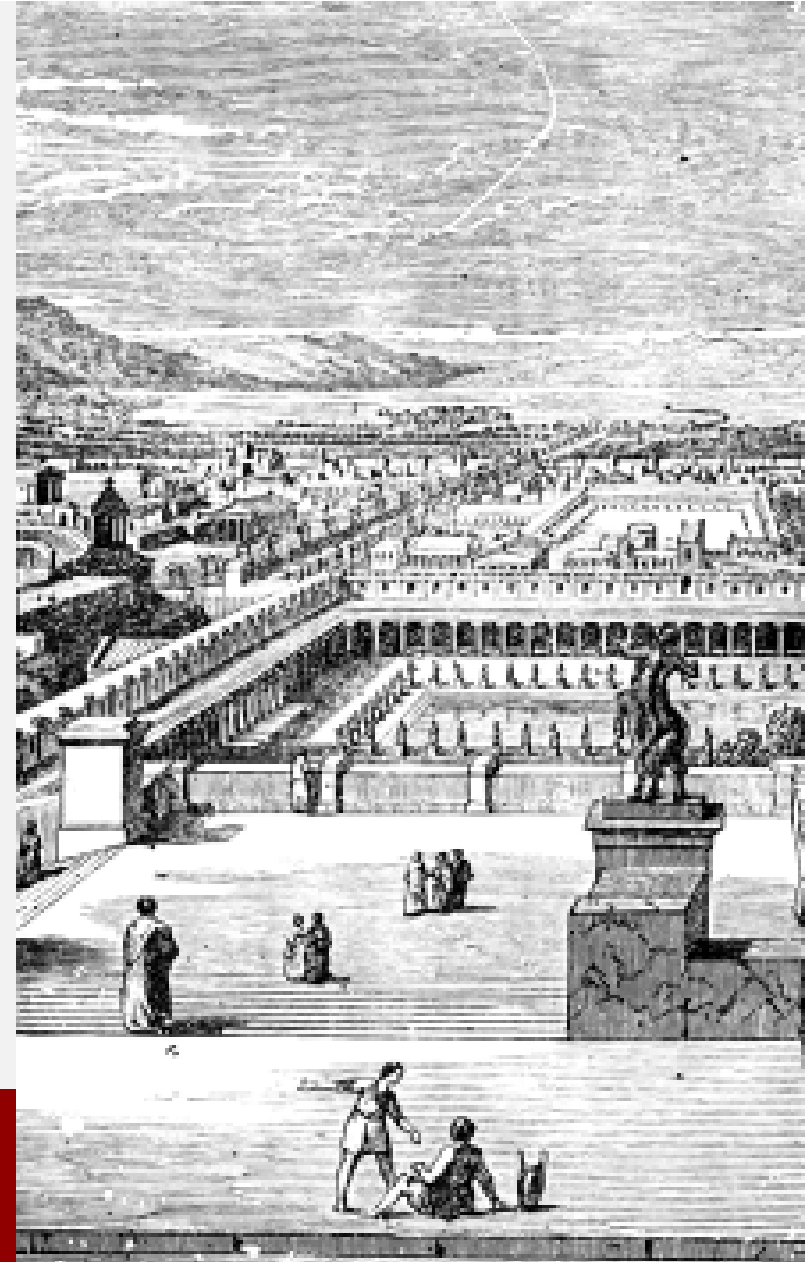
- ① 最初の訪問 (第二次旅行) ・ 1年半滞在 50年
- ② エペソ滞在中 (第三次旅行) 手紙 A を送付  
第一の手紙を送付 54～55年
- ③ 二度目の訪問 (II コリ 13:2) 55年  
手紙 B (悲しみの手紙) を送付
- ④ コリントへの途上で (ピリピ?)  
テトスと合い、現状を聞く  
第二の手紙を送付 55～56年
- ⑤ 三度目の訪問 55～56年



## 【コリントとコリント教会】

- アカヤ州(ギリシャ南部)の州都  
国際都市。ローマ人、ギリシャ人…etc。  
かなりの規模のユダヤ人共同体も存在。
- **不道德**の町。少年への性愛、複数の愛人。  
神殿娼婦の存在。 **偶像崇拜**が蔓延。
- 異邦人信者が主流。偶像への警戒の薄さ。  
基本的教理からの逸脱。自由のはき違え。

第一の手紙の後に変化はあったのか？



# 使徒の福音宣教におけるコリントの地勢的重要性



**教会全体にも大きな影響が!! 放置しては進めない!!**



## 第二の手紙の特徴・テーマ

- 第一の手紙は、コリントの信徒もよく知っているはずの**信仰のイロハのイ**を確認するもの。
- 変化もあった一方で、パウロに強まる反感も。
  - ① グッドニュース…罪を犯した人の悔い改め
  - ② 残念なニュース…献金が集まっていない
  - ③ バッドニュース…パウロの使徒性への疑い
- **伝えるべきこと**は、第一の手紙に執筆済み。さらに加えるとすれば、**パウロ自身の思い**。  
→ **感情**が強く表れた手紙になっている。



リーダーの視点で  
読むべき手紙

パウロの思いをくみ取り、リーダーとして私の信仰を成長させよう





I. 主の栄光に照らされて

Ⅱコリント4章1～6節

## 【落胆しない】 Ⅱコリント4:1

こういうわけで\*、私たちは、**あわれみ**を受けてこの務めについているので、落胆することがありません\*。

\*前章の内容・栄化の希望があるがゆえに!!

\*落胆するしかないような状況であっても!!

■落胆しない根拠は、**主の憐れみ**。

ただ**主の憐れみ**のゆえに救われ、  
将来の栄化までもが約束されている。

→使命に生きる信仰者の特権



コリントの夕景

## 【主の前での弁明】 II コリント4:2

かえって、恥となるような隠し事を捨て、ずる賢い歩みをせず、神のことばを曲げず、真理を明らかにすることで、神の御前で自分自身をすべての人の良心に推薦しています\*。

■ 浮き上がるのは、パウロへの批判

→ 恥ずかしくも裏で策略を練り、ずる賢く、神の言葉を曲げ、真理を隠している。

\* 自己推薦だ、という批判(3章)を踏まえて

■ 他者の権威ではなく、一人一人に内住される聖霊による権威によって使徒とされている。



コリント・会堂跡

## 【福音の覆い】 Ⅱコリント4:3～4

それでもなお私たちの福音に覆いが掛かっているとしたら、それは、滅び行く人々に対して覆いが掛かっているということです。

彼らの場合は、この世の神\*が、信じない者たちの思いを暗くし、神のかたちであるキリストの栄光に関わる**福音の光**を、輝かせないようにしているのです。

\*あらゆる偶像の背後には悪魔(サタン)が存在



## 【大原則】 IIコリント4:5

私たちは自分自身を宣べ伝えているのではなく、**主なるイエス・キリストを宣べ伝えています**。私たち自身は、イエスのためにあなたがたに仕えるしもべ\*なのです。

■ 信仰者の力は、ただ**主イエスの福音**を宣べ伝えようとするところにのみある。

\*しもべ(奴隷)に力も主権もない。

すべては主人の権威によっている。



## 【栄光の主】 II コリント4:6

「闇の中から光が輝き出よ\*」と言われた神が、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識\*を輝かせるために、私たちの心を照らしてくださいましたのです。

\*「光あれ(創1:3)」

➔神の栄光(シャカイナグローリー)の顕現が、天地創造のはじめ。

\*聖書から私たちが学んでいること

■はじめから終わりまで、すべてのことは、生ける神の言葉である主イエスの内にある。





Ⅱ. 死んで生きるいのち Ⅱコリント4章7～12節

シナイ山

## 【土の器】 IIコリント4:7

私たちは、この宝を土の器\*の中に入れて  
います。それは、この測り知れない力が神の  
ものであって、私たちから出たものではない  
ことが明らかになるためです。

\*土の塵からできたのが人(創2:7)

■主が使徒に選んだのは、漁師、徴税人、  
主イエスの迫害者で、裏切り者となった  
元パリサイ人。

■主はご自身の栄光のため、  
弱い者を用い、力ある者を砕かれる。





## 【避けようのない苦難】 II コリント4:8~9

私たちは四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方に暮れますが、行き詰まることはありません。

迫害されますが、見捨てられることはありません。倒されますが、滅びません。

\*信仰者には、避けようのないこと。

➡苦しめられ、途方に暮れ、迫害され、倒れる。

➡しかし主は、必要を満たし、逃れの道を与え、見捨てず、滅ぼさない。



## 【主の死を帯びて】 II コリント4:10

私たちは、いつもイエスの死を身に帯びています。それはまた、イエスのいのちが私たちの身に現れるためです。

- 主イエスの福音を信じた瞬間、古い罪の私も、十字架で主と死んで、主と共に生まれ変わった。
- 古い私は死んだ。ならなぜ、死んだ私の感情を今も引きずるのか？

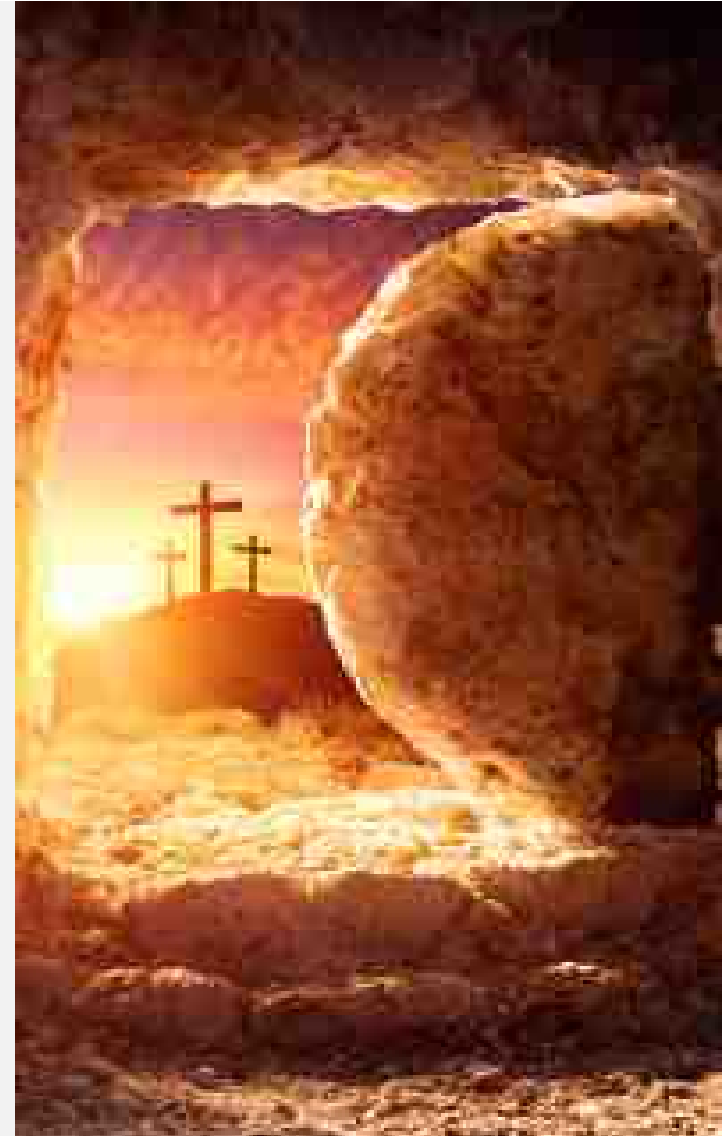
**新しい命を喜んで生きているのか？**



## 【イエスのいのちのため】 II コリント4:11

私たち生きている者は、イエスのために絶えず死に渡されています。それはまた、イエスのいのちが私たちの死ぬべき肉体において現れるためです。

- 古い私が死に、新しい私が生かされる。
  - ➔ 信仰者の成長は、罪の自覚の深まり。
    - 浮かび上がる罪の私は、すでに死んだ者。
    - 死んだ者は、手放せばいいだけのこと。



**私たちは、死んでいく過程で、同時に生かされていく**

## 【死んで働くいのち】 Ⅱコリント4:12

こうして、死は私たちのうちに働き、いのちはあなたがたのうちに働いている\*のです。

\*高度な対句法で広がる意味

死・私たち → いのち・私たち ではなく、

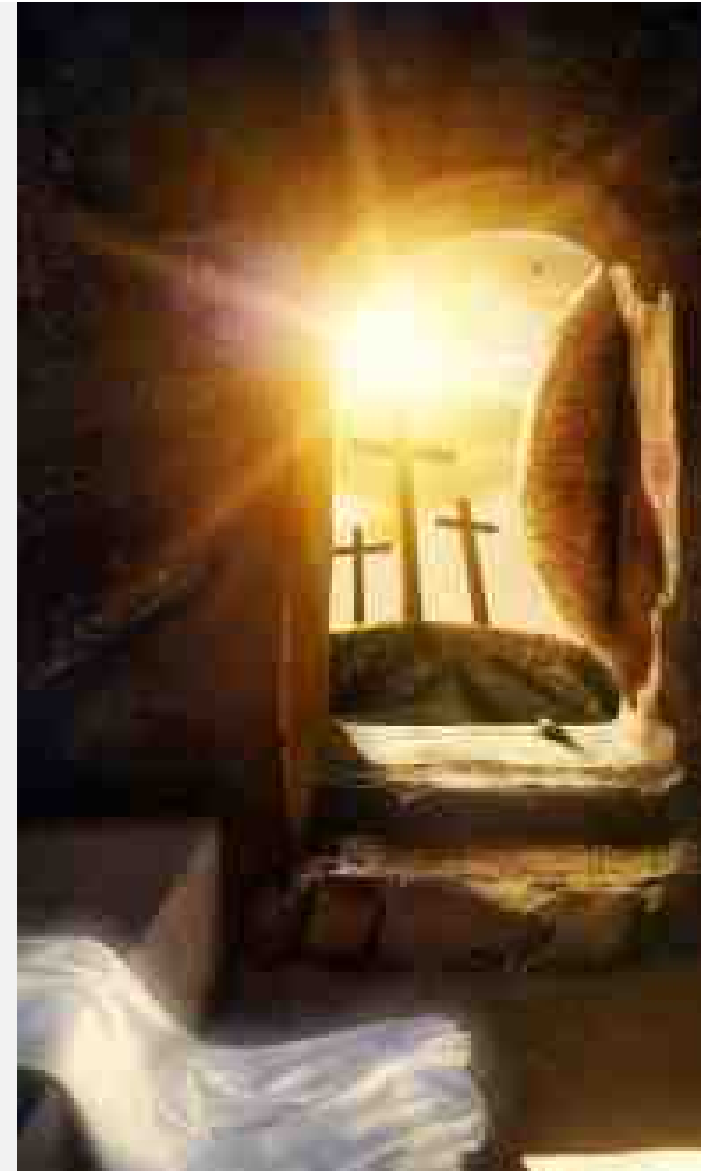
死・私たち → いのち・あなたがた

■死んで、生きるが、信仰者の原則

古い私が死んで、使命に生きるとき、

誰かが死んで、新しいいのちを生きる。

**死ぬべき私が死ねば、新しいいのちを生きる誰かが必ずいる**





Ⅲ. ゴールを見据えて Ⅱコリント4章13～18節

## 【使徒パウロの覚悟】 II コリント4:13

「私は信じています。それゆえに語ります\*」と書かれているとおり、それと同じ信仰の霊\*を持っている私たちも、信じているゆえに語ります。

\*詩篇116:10からの引用

おそらくは迫害を経験した預言者の歌。

\*稀代の信仰者だった預言者も使徒たちも

迫害されながらも語らずにはいられなかった。

「使 7:52 あなたがたの先祖たちが迫害しなかった預言者が、だれかいたのでしょうか。」

…殉教の引き金となったステパノの言葉



## 【パウロの希望】 IIコリント4:14

主イエスをよみがえらせた方が、私たちをもイエスとともによみがえらせ、**あなたがたと一緒に御前に立たせてくださる\*こと**を知っているからです。

**\*パウロが見据えているのは将来の栄化**

■福音を信じた者から救いは失われない。

聖化の過程で紆余曲折を経ながらも、

最後には必ず、栄光の体を与えられ、

王の王、主イエスの御前に立たせられる。



## 【落胆しない】 II コリント4:15~16

すべてのことは、あなたがたのためであり、恵みがますます多くの人々に及んで感謝が満ちあふれ、神の栄光が現れるようになるためなのです。ですから、私たちは落胆しません。

たとえ**私たちの**外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています\*。

■ 落胆するしかない、コリントの現実があるが、福音を信じたがゆえの、主による希望がある。

\* 宣教に命を注いでいる者にしか言えない言葉。

日々死んでいると言えるほどに、主にすべてを献げているのか？





## 【一時の軽い患難】 II コリント4:17

私たちの一時の軽い苦難は、それとは比べものにならないほど重い永遠の栄光を、私たちにもたらすのです。

■ローマの迫害、同胞からの迫害、遭難、災厄の数々、手塩にかけた兄弟姉妹の裏切り…。死んだ方がましと思えるような、数々の苦難を通過した、パウロの言の重さ。

→パウロすら軽いと言うのなら、私の苦難など、どれほど軽いものか!!



約束された  
栄光の重さとは  
比較にならない  
苦難の軽さ

## 【見えないものに】 II コリント4:18

私たちは見えるものではなく、**見えないもの**に目を留めます。見えるものは一時的であり、**見えないもの**は永遠に続くからです。

- パウロが確信していたのは、栄化のゴール。私もあなたも、完全な者とされる時が来る。復活の栄光の体を与えられ、神の王国に、ただ喜びをもって生きる時が来る。

**将来の約束が、試練を越える力になる。確信を深めて行こう**





#### IV. まとめと適用

落胆しない根拠を知ろう

## 落胆しない、パウロの根拠

- 涙ながらに書いた手紙を拒絶され、使徒性まで疑われたパウロ。落胆しなかったわけがない。四方八方から苦しめられ、途方に暮れ、迫害され、倒れた。
- 試練の苦難の中で、パウロは何度も倒れ、死を味わっただろう。
- 主にすぎるしか、どうにもこうにも道はない。絶望の底から主がパウロを引き上げ、道を拓かれ、次へと押し出された。
- 将来に約束された栄光の確信が、パウロにいつでも力を与えた。

## 預言者たちと使徒たちに身をもって教えられること

「私は信じています。それゆえに語ります。Ⅱコリ4:13」

- パウロが引用した詩篇116:10は、神の預言者の苦難の歌だ。主の言葉を世に告げる者には、避けがたい試練と苦難がある。
- 遣わされた先で、心破れて倒れてなお、注がれている力がある。粉々に打ち砕かれて、はじめて味わい知らされる主の恵みがある。
- 詩篇116篇もまた、将来の栄光をゴールに希望を語っている。預言者と使徒パウロが託した希望に、私たちも心を預けよう。

## 詩篇116:1～3

116:1 私は主を愛している。

【主】は私の声 私の願いを聞いてくださる。

116:2 主が私に耳を傾けてくださるので

私は生きていますかぎり 主を呼び求める。

116:3 死の網が私を取り巻き よみの恐怖が私を襲い

私は苦しみと悲しみの中にあった。

## 詩篇116:1～

116:4 そのとき私は【主】の御名を呼び求めた。

「【主】よどうか 私のいのちを助け出してください。」

116:5 【主】は 情け深く正しい。

まことに私たちの神は あわれみ深い。

116:6 【主】は 浅はかな者をも守られる。

私がおとしめられたとき 私を救ってくださった。

116:7 私のたましいよ おまえの全きいこいに戻れ。

【主】がおまえに良くしてくださったのだから。

## 詩篇116:8～10

116:8 まことにあなたは 私のたましいを死から  
私の目を涙から

私の足をつまずきから 救い出してくださいました。

116:9 私は生ける者の地で 【主】の御前を歩みます。

116:10 私は信じています。まことに私は語ります。

私は大いに苦しんでいました。



## 詩篇116:11

116:11 この私は恐れ うろたえて言いました。

「人はだれでも偽りを言う」と。

116:12 主が私に良くしてくださったすべてに対し

私は【主】に何と応えたらよいのでしょうか。

116:13 私は救いの杯を掲げ 【主】の御名を呼び求めます。

116:14 私は自分の誓いを【主】に果たします。

御民すべての目の前で。

## 詩篇116:15~16

116:15 主の聖徒たちの死は【主】の目に尊い。

116:16 ああ【主】よ 私はまことにあなたのしもべです。

あなたのしもべ あなたのはしための子です。

あなたは私のかせを解いてくださいました。

## 詩篇116:15～

116:17 私はあなたに感謝のいけにえを献げ

【主】の御名を呼び求めます。

116:18 私は自分の誓いを【主】に果たします。

御民すべての目の前で。

116:19 【主】の家の大庭で。エルサレムよあなたのただ中で。

ハレルヤ。

## 福音と信じて救われた、その意味を噛みしめよう

- 信仰の告白は、主の前での誓いでもある。
- 「私の罪のために十字架にかけられ、葬られ、復活された」  
主イエス・キリストを信頼する。  
信頼するとは、預けること。死んで、生まれ変わった者として、  
主のしもべとして生きるという、主の御前での尊い誓いだ。
- 「救われた」とは、私のすべては、主の所有物となったということ。  
命すら、わたしのものではない。主のために用いるのは当然だ。

**主にささげる日々を送っているか。常に問われている。**

## ★ 御言葉に聴き、聴いたならば従おう ★

- 具体的になすべきことは、聖霊があなたに語ってくださる。  
逃れ得ない、目の前に突きつけられた課題が誰しもあるはずだ。
- 向き合えば必ず、打ち砕かれて倒れる。死ぬと言うのだから当然だ。  
それでも主に信頼して踏み出す者は、歩みのただ中で命を得る。
- 永遠の栄光は約束されているのに、何を恐れるのかと主は問われる。  
躊躇する思いもろとも、主の御手に預けて一步を踏み出そう。

わたしのもとに来なさいと、招かれる主に応えよう

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの<sup>つみ あがな</sup>罪を贖うために十字架<sup>じゅうじか</sup>で死<sup>し</sup>に、

②墓<sup>はか</sup>に葬<sup>ほうむ</sup>られ、

③三日目<sup>みっかめ</sup>に復活<sup>ふっかつ</sup>した<sup>しん</sup>こと、を信じます。

古い私は死んだ<sup>しんじつ</sup>といいながら、なお捕<sup>と</sup>らわれた私の心があります。

今、真実に、新しいいのちを生きる者としてください。

あなたが目の前に示されている、この課題<sup>かだい</sup>に向かって踏み出<sup>ふ</sup>します。

たお倒れる私を引き上げ、栄光<sup>えいこう</sup>のゴールに導<sup>みちび</sup>かれる主に信<sup>しんらい</sup>頼します。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」

コリント

第二

④

# 「死んで生きる いのちの道」

コリント人への手紙Ⅱ 4章 落胆しないパウロの根拠

# アウトライン

## 0. イントロダクション

I. 主の栄光に照らされて 1～6節

II. 死んで生きるいのち 7～12節

III. ゴールを見据えて 13～18節

## IV. まとめと適用

落胆しない根拠を知ろう





## コリントの手紙第二とは？

- **著者** …使徒パウロ。
- **年代** …第一(55年)の2年後、57年頃。
- **執筆場所** …コリントへの途上、ピリピ。
- **対象** …コリントのキリスト者たち  
(離散のユダヤ人と異邦人)
- **目的** …アフターケア。献金の促し。  
非難への弁明。再訪問の備え。



## パウロのコリント訪問

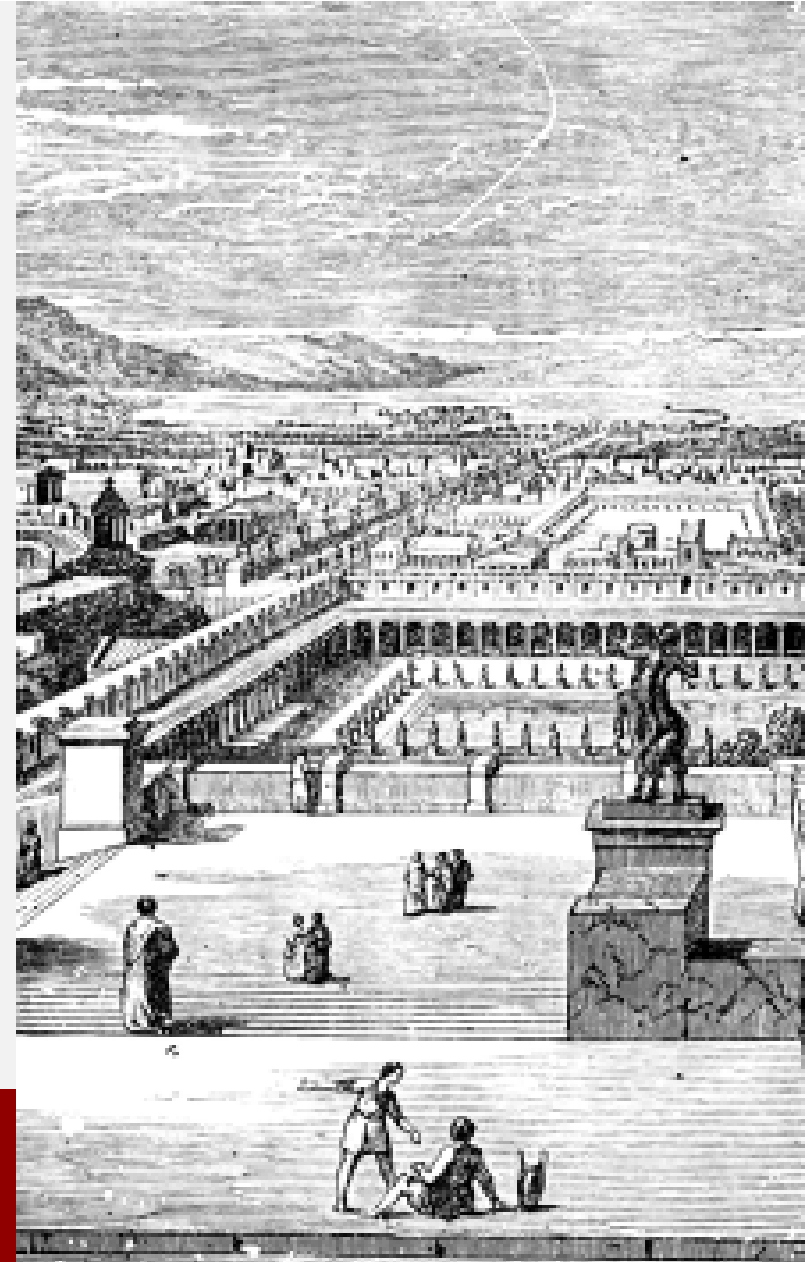
- ① 最初の訪問 (第二次旅行) ・ 1年半滞在 50年
- ② エペソ滞在中 (第三次旅行) 手紙 A を送付  
第一の手紙を送付 54～55年
- ③ 二度目の訪問 (Ⅱ コリ 13:2) 55年  
手紙 B (悲しみの手紙) を送付
- ④ コリントへの途上で (ピリピ?)  
テトスと合い、現状を聞く  
第二の手紙を送付 55～56年
- ⑤ 三度目の訪問 55～56年



## 【コリントとコリント教会】

- アカヤ州(ギリシャ南部)の州都  
国際都市。ローマ人、ギリシャ人…etc。  
かなりの規模のユダヤ人共同体も存在。
- **不道德**の町。少年への性愛、複数の愛人。  
神殿娼婦の存在。 **偶像崇拜**が蔓延。
- 異邦人信者が主流。偶像への警戒の薄さ。  
基本的教理からの逸脱。自由のはき違え。

第一の手紙の後に変化はあったのか？



# 使徒の福音宣教におけるコリントの地勢的重要性



**教会全体にも大きな影響が!! 放置しては進めない!!**



## 第二の手紙の特徴・テーマ

- 第一の手紙は、コリントの信徒もよく知っているはずの**信仰のイロハのイ**を確認するもの。
- 変化もあった一方で、パウロに強まる反感も。
  - ① グッドニュース…罪を犯した人の悔い改め
  - ② 残念なニュース…献金が集まっていない
  - ③ バッドニュース…パウロの使徒性への疑い
- **伝えるべきこと**は、第一の手紙に執筆済み。さらに加えるとすれば、**パウロ自身の思い**。  
→ **感情**が強く表れた手紙になっている。



リーダーの視点で  
読むべき手紙

パウロの思いをくみ取り、リーダーとして私の信仰を成長させよう



I. 主の栄光に照らされて

Ⅱコリント4章1～6節

## 【落胆しない】 Ⅱコリント4:1

こういうわけで\*、私たちは、**あわれみ**を受けてこの務めについているので、落胆することがありません\*。

\*前章の内容・栄化の希望があるがゆえに!!

\*落胆するしかないような状況であっても!!

■落胆しない根拠は、**主の憐れみ**。

ただ**主の憐れみ**のゆえに救われ、  
将来の栄化までもが約束されている。

→使命に生きる信仰者の特権



コリントの夕景



## 【主の前での弁明】 II コリント4:2

かえって、恥となるような隠し事を捨て、ずる賢い歩みをせず、神のことばを曲げず、真理を明らかにすることで、神の御前で自分自身をすべての人の良心に推薦しています\*。

■ 浮き上がるのは、パウロへの批判

→ 恥ずかしくも裏で策略を練り、ずる賢く、神の言葉を曲げ、真理を隠している。

\* 自己推薦だ、という批判(3章)を踏まえて

■ 他者の権威ではなく、一人一人に内住される聖霊による権威によって使徒とされている。



コリント・会堂跡

## 【福音の覆い】 Ⅱコリント4:3～4

それでもなお私たちの福音に覆いが掛かっているとしたら、それは、滅び行く人々に対して覆いが掛かっているということです。

彼らの場合は、この世の神\*が、信じない者たちの思いを暗くし、神のかたちであるキリストの栄光に関わる**福音の光**を、輝かせないようにしているのです。

\*あらゆる偶像の背後には悪魔(サタン)が存在



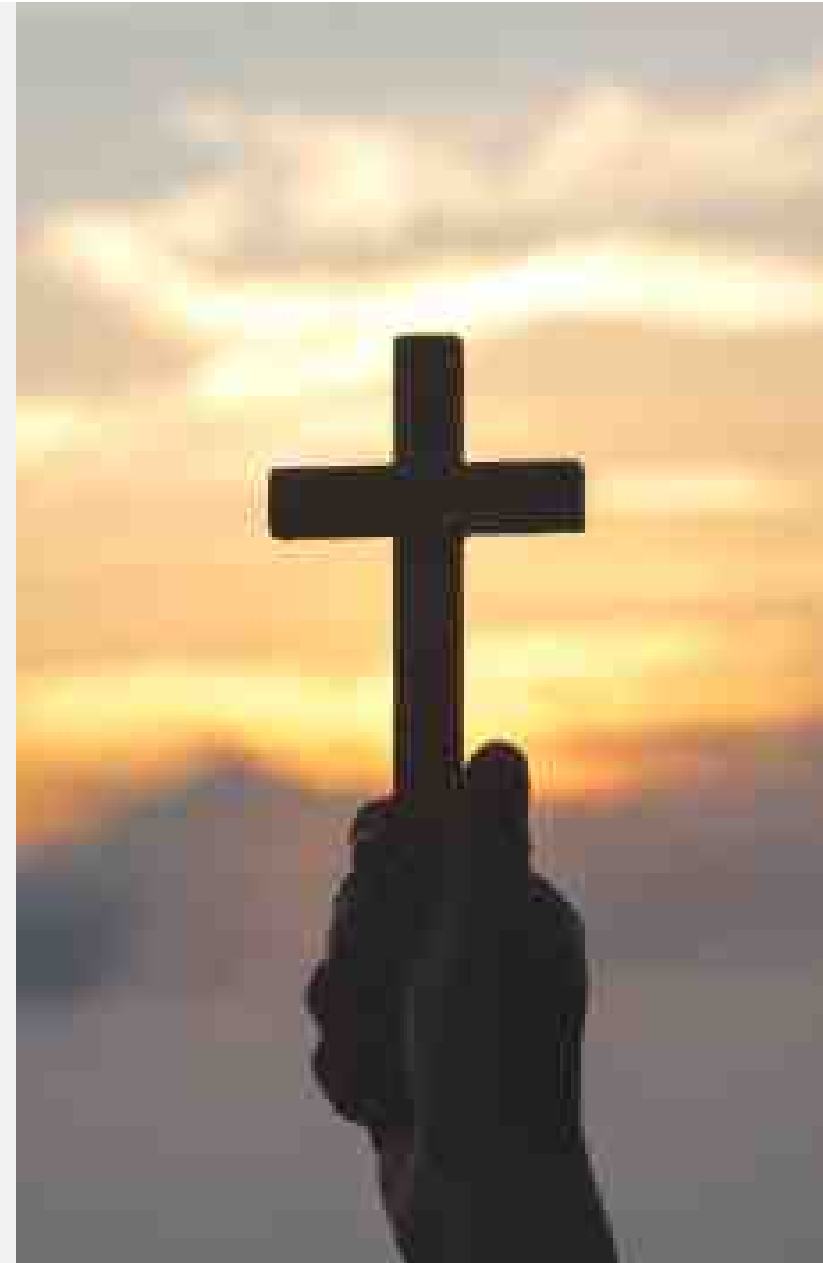
## 【大原則】 IIコリント4:5

私たちは自分自身を宣べ伝えているのではなく、**主なるイエス・キリストを宣べ伝えています**。私たち自身は、イエスのためにあなたがたに仕えるしもべ\*なのです。

■ 信仰者の力は、ただ**主イエスの福音**を宣べ伝えようとするところにのみある。

\*しもべ(奴隷)に力も主権もない。

すべては主人の権威によっている。



## 【栄光の主】 II コリント4:6

「闇の中から光が輝き出よ\*」と言われた神が、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識\*を輝かせるために、私たちの心を照らしてくださいましたのです。

\*「光あれ(創1:3)」

➔神の栄光(シャカイナグローリー)の顕現が、天地創造のはじめ。

\*聖書から私たちが学んでいること

■はじめから終わりまで、すべてのことは、生ける神の言葉である主イエスの内にある。





Ⅱ. 死んで生きるいのち Ⅱコリント4章7～12節

シナイ山

## 【土の器】 IIコリント4:7

私たちは、この宝を土の器\*の中に入れて  
います。それは、この測り知れない力が神の  
ものであって、私たちから出たものではない  
ことが明らかになるためです。

\*土の塵からできたのが人(創2:7)

- 主が使徒に選んだのは、漁師、徴税人、  
主イエスの迫害者で、裏切り者となった  
元パリサイ人。
- 主はご自身の栄光のため、  
弱い者を用い、力ある者を砕かれる。



## 【避けようのない苦難】 Ⅱコリント4:8～9

私たちは四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方に暮れますが、行き詰まることはありません。

迫害されますが、見捨てられることはありません。倒されますが、滅びません。

\*信仰者には、避けようのないこと。

➡苦しめられ、途方に暮れ、迫害され、倒れる。

➡しかし主は、必要を満たし、逃れの道を与え、見捨てず、滅ぼさない。



## 【主の死を帯びて】 II コリント4:10

私たちは、いつもイエスの死を身に帯びています。それはまた、イエスのいのちが私たちの身に現れるためです。

- 主イエスの福音を信じた瞬間、古い罪の私も、十字架で主と死んで、主と共に生まれ変わった。
- 古い私は死んだ。ならなぜ、死んだ私の感情を今も引きずるのか？

**新しい命を喜んで生きているのか？**

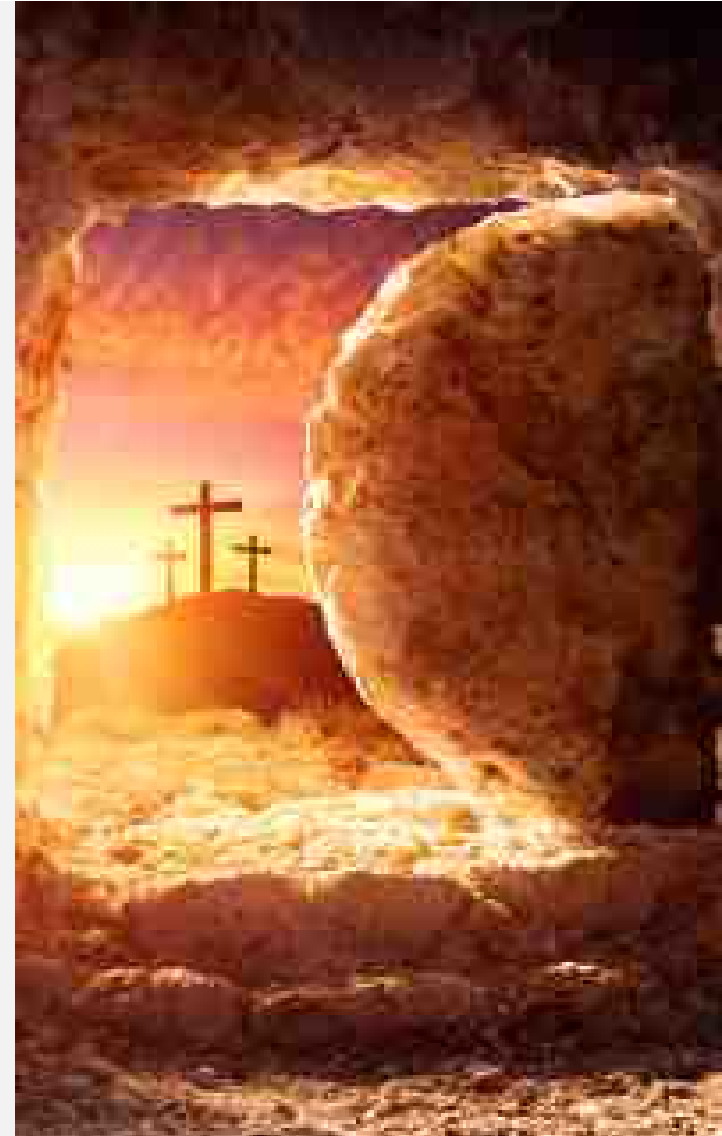




## 【イエスのいのちのため】 II コリント4:11

私たち生きている者は、イエスのために絶えず死に渡されています。それはまた、イエスのいのちが私たちの死ぬべき肉体において現れるためです。

- 古い私が死に、新しい私が生かされる。
  - ➔ 信仰者の成長は、罪の自覚の深まり。
    - 浮かび上がる罪の私は、すでに死んだ者。
    - 死んだ者は、手放せばいいだけのこと。



**私たちは、死んでいく過程で、同時に生かされていく**

## 【死んで働くいのち】 Ⅱコリント4:12

こうして、死は私たちのうちに働き、いのちはあなたがたのうちに働いている\*のです。

\*高度な対句法で広がる意味

死・私たち → いのち・私たち ではなく、

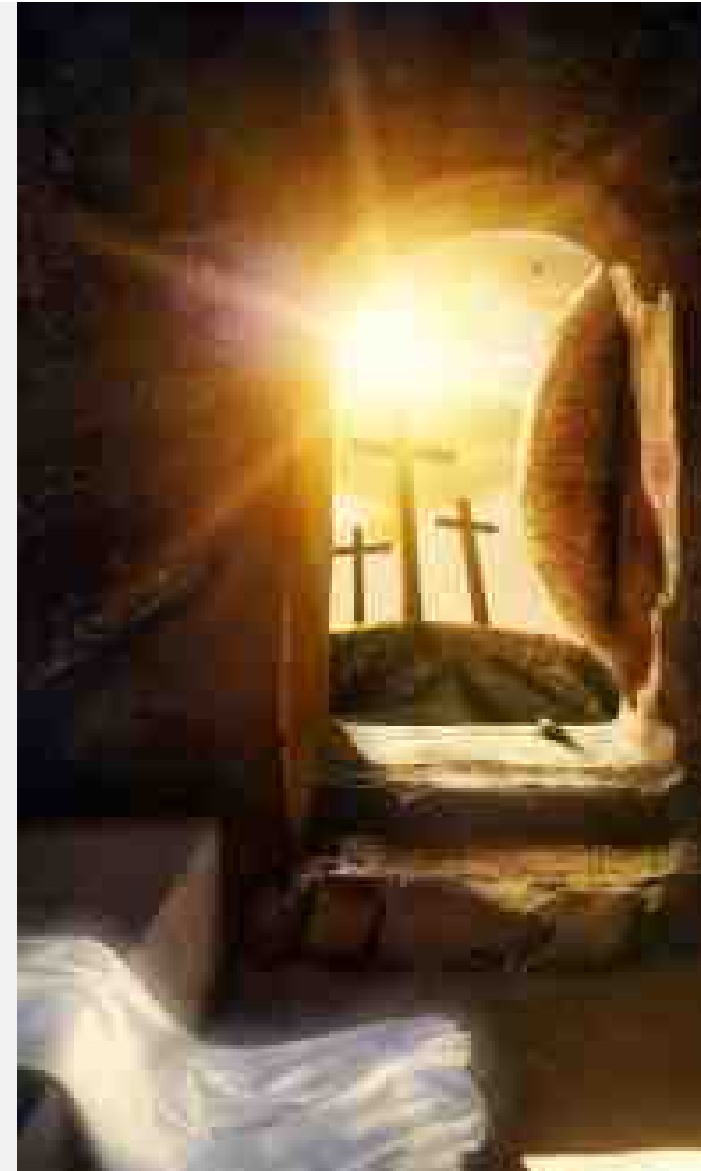
死・私たち → いのち・あなたがた

■死んで、生きるが、信仰者の原則

古い私が死んで、使命に生きるとき、

誰かが死んで、新しいいのちを生きる。

**死ぬべき私が死ねば、新しいいのちを生きる誰かが必ずいる**





Ⅲ. ゴールを見据えて Ⅱコリント4章13～18節

## 【使徒パウロの覚悟】 II コリント4:13

「私は信じています。それゆえに語ります\*」と書かれているとおり、それと同じ信仰の霊\*を持っている私たちも、信じているゆえに語ります。

\*詩篇116:10からの引用

おそらくは迫害を経験した預言者の歌。

\*稀代の信仰者だった預言者も使徒たちも

迫害されながらも語らずにはいられなかった。

「使 7:52 あなたがたの先祖たちが迫害しなかった預言者が、だれかいたのでしょうか。」

…殉教の引き金となったステパノの言葉



## 【パウロの希望】 IIコリント4:14

主イエスをよみがえらせた方が、私たちをもイエスとともによみがえらせ、**あなたがたと一緒に御前に立たせてくださる\*こと**を知っているからです。

**\*パウロが見据えているのは将来の栄化**

■福音を信じた者から救いは失われない。

聖化の過程で紆余曲折を経ながらも、

最後には必ず、栄光の体を与えられ、

王の王、主イエスの御前に立たせられる。



## 【落胆しない】 II コリント4:15~16

すべてのことは、あなたがたのためであり、恵みがますます多くの人々に及んで感謝が満ちあふれ、神の栄光が現れるようになるためなのです。ですから、私たちは落胆しません。

たとえ**私たちの**外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています\*。

■ 落胆するしかない、コリントの現実があるが、福音を信じたがゆえの、主による希望がある。

\* 宣教に命を注いでいる者にしか言えない言葉。

日々死んでいると言えるほどに、主にすべてを献げているのか？



## 【一時の軽い患難】 II コリント4:17

私たちの一時の軽い苦難は、それとは比べものにならないほど重い永遠の栄光を、私たちにもたらすのです。

■ローマの迫害、同胞からの迫害、遭難、災厄の数々、手塩にかけた兄弟姉妹の裏切り…。死んだ方がましと思えるような、数々の苦難を通過した、パウロの言の重さ。

→パウロすら軽いと言うのなら、私の苦難など、どれほど軽いものか!!



約束された  
栄光の重さとは  
比較にならない  
苦難の軽さ

## 【見えないものに】 II コリント4:18

私たちは見えるものではなく、**見えないもの**に目を留めます。見えるものは一時的であり、**見えないもの**は永遠に続くからです。

- パウロが確信していたのは、栄化のゴール。私もあなたも、完全な者とされる時が来る。復活の栄光の体を与えられ、神の王国に、ただ喜びをもって生きる時が来る。

**将来の約束が、試練を越える力になる。確信を深めて行こう**







#### IV. まとめと適用

落胆しない根拠を知ろう

## 落胆しない、パウロの根拠

- 涙ながらに書いた手紙を拒絶され、使徒性まで疑われたパウロ。落胆しなかったわけがない。四方八方から苦しめられ、途方に暮れ、迫害され、倒れた。
- 試練の苦難の中で、パウロは何度も倒れ、死を味わっただろう。
- 主にすぎるしか、どうにもこうにも道はない。絶望の底から主がパウロを引き上げ、道を拓かれ、次へと押し出された。
- 将来に約束された栄光の確信が、パウロにいつでも力を与えた。

## 預言者たちと使徒たちに身をもって教えられること

「私は信じています。それゆえに語ります。Ⅱコリ4:13」

- パウロが引用した詩篇116:10は、神の預言者の苦難の歌だ。主の言葉を世に告げる者には、避けがたい試練と苦難がある。
- 遣わされた先で、心破れて倒れてなお、注がれている力がある。粉々に打ち砕かれて、はじめて味わい知らされる主の恵みがある。
- 詩篇116篇もまた、将来の栄光をゴールに希望を語っている。預言者と使徒パウロが託した希望に、私たちも心を預けよう。

## 詩篇116:1～3

116:1 私は主を愛している。

【主】は私の声 私の願いを聞いてくださる。

116:2 主が私に耳を傾けてくださるので

私は生きていますかぎり 主を呼び求める。

116:3 死の網が私を取り巻き よみの恐怖が私を襲い

私は苦しみと悲しみの中にあつた。

## 詩篇116:1～

116:4 そのとき私は【主】の御名を呼び求めた。

「【主】よどうか 私のいのちを助け出してください。」

116:5 【主】は 情け深く正しい。

まことに私たちの神は あわれみ深い。

116:6 【主】は 浅はかな者をも守られる。

私がおとしめられたとき 私を救ってくださった。

116:7 私のたましいよ おまえの全きいこいに戻れ。

【主】がおまえに良くしてくださったのだから。

## 詩篇116:8～10

116:8 まことにあなたは 私のたましいを死から  
私の目を涙から

私の足をつまずきから 救い出してくださいました。

116:9 私は生ける者の地で 【主】の御前を歩みます。

116:10 私は信じています。まことに私は語ります。

私は大いに苦しんでいました。

## 詩篇116:11

116:11 この私は恐れ うろたえて言いました。

「人はだれでも偽りを言う」と。

116:12 主が私に良くしてくださったすべてに対し

私は【主】に何と応えたらよいのでしょうか。

116:13 私は救いの杯を掲げ 【主】の御名を呼び求めます。

116:14 私は自分の誓いを【主】に果たします。

御民すべての目の前で。

## 詩篇116:15~16

116:15 主の聖徒たちの死は【主】の目に尊い。

116:16 ああ【主】よ 私はまことにあなたのしもべです。

あなたのしもべ あなたのはしための子です。

あなたは私のかせを解いてくださいました。



## 詩篇116:15～

116:17 私はあなたに感謝のいけにえを献げ

【主】の御名を呼び求めます。

116:18 私は自分の誓いを【主】に果たします。

御民すべての目の前で。

116:19 【主】の家の大庭で。エルサレムよあなたのただ中で。

ハレルヤ。

## 福音と信じて救われた、その意味を噛みしめよう

- 信仰の告白は、主の前での誓いでもある。
- 「私の罪のために十字架にかけられ、葬られ、復活された」  
主イエス・キリストを信頼する。  
信頼するとは、預けること。死んで、生まれ変わった者として、  
主のしもべとして生きるという、主の御前での尊い誓いだ。
- 「救われた」とは、私のすべては、主の所有物となったということ。  
命すら、わたしのものではない。主のために用いるのは当然だ。

**主にささげる日々を送っているか。常に問われている。**

## ★ 御言葉に聴き、聴いたならば従おう ★

- 具体的になすべきことは、聖霊があなたに語ってくださる。  
逃れ得ない、目の前に突きつけられた課題が誰しもあるはずだ。
- 向き合えば必ず、打ち砕かれて倒れる。死ぬと言うのだから当然だ。  
それでも主に信頼して踏み出す者は、歩みのただ中で命を得る。
- 永遠の栄光は約束されているのに、何を恐れるのかと主は問われる。  
躊躇する思いもろとも、主の御手に預けて一步を踏み出そう。

**わたしのもとに来なさいと、招かれる主に応えよう**

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの<sup>つみ あがな</sup>罪を贖うために十字架<sup>じゅうじか</sup>で死<sup>し</sup>に、

②墓<sup>はか</sup>に葬<sup>ほうむ</sup>られ、

③三日目<sup>みっかめ</sup>に復活<sup>ふっかつ</sup>した<sup>しん</sup>こと、を信じます。

古い私は死んだ<sup>しんじつ</sup>といいながら、なお捕<sup>と</sup>らわれた私の心があります。

今、真実に、新しいいのちを生きる者としてください。

あなたが目の前に示されている、この課題<sup>かだい</sup>に向かって踏み出<sup>ふ</sup>します。

たお倒れる私を引き上げ、栄光<sup>えいこう</sup>のゴールに導<sup>みちび</sup>かれる主に信<sup>しんらい</sup>頼します。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」

コリント

第二

④

# 「死んで生きる いのちの道」

コリント人への手紙Ⅱ 4章 落胆しないパウロの根拠

# アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. 主の栄光に照らされて 1～6節
- II. 死んで生きるいのち 7～12節
- III. ゴールを見据えて 13～18節
- IV. まとめと適用
  - 落胆しない根拠を知ろう



## コリントの手紙第二とは？

- **著者** …使徒パウロ。
- **年代** …第一(55年)の2年後、57年頃。
- **執筆場所** …コリントへの途上、ピリピ。
- **対象** …コリントのキリスト者たち  
(離散のユダヤ人と異邦人)
- **目的** …アフターケア。献金の促し。  
非難への弁明。再訪問の備え。



## パウロのコリント訪問

- ① 最初の訪問 (第二次旅行) ・ 1年半滞在 50年
- ② エペソ滞在中 (第三次旅行) 手紙 A を送付  
第一の手紙を送付 54～55年
- ③ 二度目の訪問 (II コリ 13:2) 55年  
手紙 B (悲しみの手紙) を送付
- ④ コリントへの途上で (ピリピ?)  
テトスと合い、現状を聞く  
第二の手紙を送付 55～56年
- ⑤ 三度目の訪問 55～56年

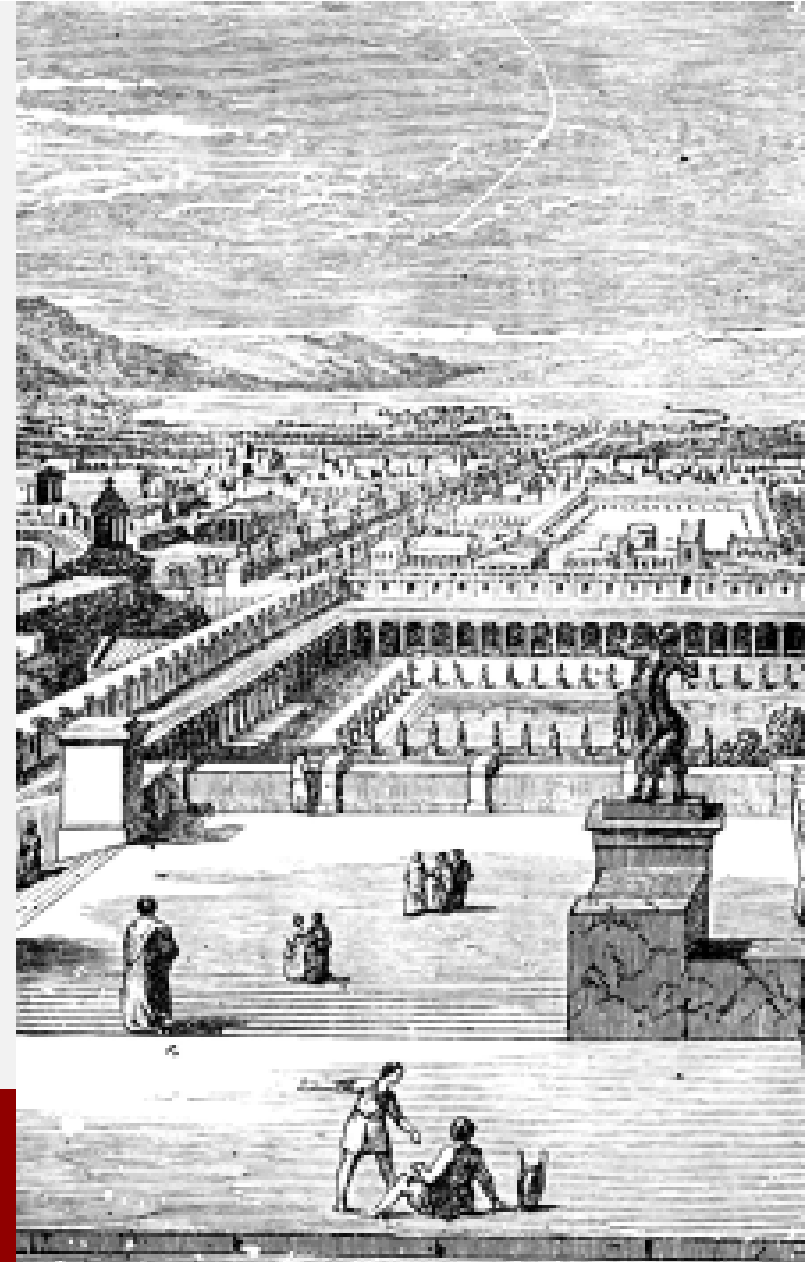




## 【コリントとコリント教会】

- アカヤ州(ギリシャ南部)の州都  
国際都市。ローマ人、ギリシャ人…etc。  
かなりの規模のユダヤ人共同体も存在。
- **不道德**の町。少年への性愛、複数の愛人。  
神殿娼婦の存在。 **偶像崇拜**が蔓延。
- 異邦人信者が主流。偶像への警戒の薄さ。  
基本的教理からの逸脱。自由のはき違え。

第一の手紙の後に変化はあったのか？



# 使徒の福音宣教におけるコリントの地勢的重要性



**教会全体にも大きな影響が!! 放置しては進めない!!**



## 第二の手紙の特徴・テーマ

- 第一の手紙は、コリントの信徒もよく知っているはずの**信仰のイロハのイ**を確認するもの。
- 変化もあった一方で、パウロに強まる反感も。
  - ① グッドニュース…罪を犯した人の悔い改め
  - ② 残念なニュース…献金が集まっていない
  - ③ バッドニュース…パウロの使徒性への疑い
- **伝えるべきこと**は、第一の手紙に執筆済み。さらに加えるとすれば、**パウロ自身の思い**。  
→ **感情**が強く表れた手紙になっている。



リーダーの視点で  
読むべき手紙

パウロの思いをくみ取り、リーダーとして私の信仰を成長させよう



I. 主の栄光に照らされて

Ⅱコリント4章1～6節

## 【落胆しない】 Ⅱコリント4:1

こういうわけで\*、私たちは、**あわれみ**を受けてこの務めについているので、落胆することがありません\*。

\*前章の内容・栄化の希望があるがゆえに!!

\*落胆するしかないような状況であっても!!

■落胆しない根拠は、**主の憐れみ**。

ただ**主の憐れみ**のゆえに救われ、  
将来の栄化までもが約束されている。

➔**使命に生きる信仰者の特権**



コリントの夕景

## 【主の前での弁明】 II コリント4:2

かえって、恥となるような隠し事を捨て、ずる賢い歩みをせず、神のことばを曲げず、真理を明らかにすることで、神の御前で自分自身をすべての人の良心に推薦しています\*。

■ 浮き上がるのは、パウロへの批判

→ 恥ずかしくも裏で策略を練り、ずる賢く、神の言葉を曲げ、真理を隠している。

\* 自己推薦だ、という批判(3章)を踏まえて

■ 他者の権威ではなく、一人一人に内住される聖霊による権威によって使徒とされている。



コリント・会堂跡

## 【福音の覆い】 Ⅱコリント4:3～4

それでもなお私たちの福音に覆いが掛かっているとしたら、それは、滅び行く人々に対して覆いが掛かっているということです。

彼らの場合は、この世の神\*が、信じない者たちの思いを暗くし、神のかたちであるキリストの栄光に関わる**福音の光**を、輝かせないようにしているのです。

\*あらゆる偶像の背後には悪魔(サタン)が存在





## 【大原則】 IIコリント4:5

私たちは自分自身を宣べ伝えているのではなく、**主なるイエス・キリストを宣べ伝えています**。私たち自身は、イエスのためにあなたがたに仕えるしもべ\*なのです。

■ 信仰者の力は、ただ**主イエスの福音**を宣べ伝えようとするところにのみある。

\*しもべ(奴隷)に力も主権もない。

すべては主人の権威によっている。



## 【栄光の主】 II コリント4:6

「闇の中から光が輝き出よ\*」と言われた神が、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識\*を輝かせるために、私たちの心を照らしてくださいましたのです。

\*「光あれ(創1:3)」

➔神の栄光(シャカイナグローリー)の顕現が、天地創造のはじめ。

\*聖書から私たちが学んでいること

■はじめから終わりまで、すべてのことは、生ける神の言葉である主イエスの内にある。





Ⅱ. 死んで生きるいのち Ⅱコリント4章7～12節

シナイ山

## 【土の器】 IIコリント4:7

私たちは、この宝を土の器\*の中に入れて  
います。それは、この測り知れない力が神の  
ものであって、私たちから出たものではない  
ことが明らかになるためです。

\*土の塵からできたのが人(創2:7)

- 主が使徒に選んだのは、漁師、徴税人、  
主イエスの迫害者で、裏切り者となった  
元パリサイ人。
- 主はご自身の栄光のため、  
弱い者を用い、力ある者を砕かれる。



## 【避けようのない苦難】 Ⅱコリント4:8～9

私たちは四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方に暮れますが、行き詰まることはありません。

迫害されますが、見捨てられることはありません。倒されますが、滅びません。

\*信仰者には、避けようのないこと。

➡苦しめられ、途方に暮れ、迫害され、倒れる。

➡しかし主は、必要を満たし、逃れの道を与え、見捨てず、滅ぼさない。



## 【主の死を帯びて】 II コリント4:10

私たちは、いつもイエスの死を身に帯びています。それはまた、イエスのいのちが私たちの身に現れるためです。

- 主イエスの福音を信じた瞬間、古い罪の私も、十字架で主と死んで、主と共に生まれ変わった。
- 古い私は死んだ。ならなぜ、死んだ私の感情を今も引きずるのか？

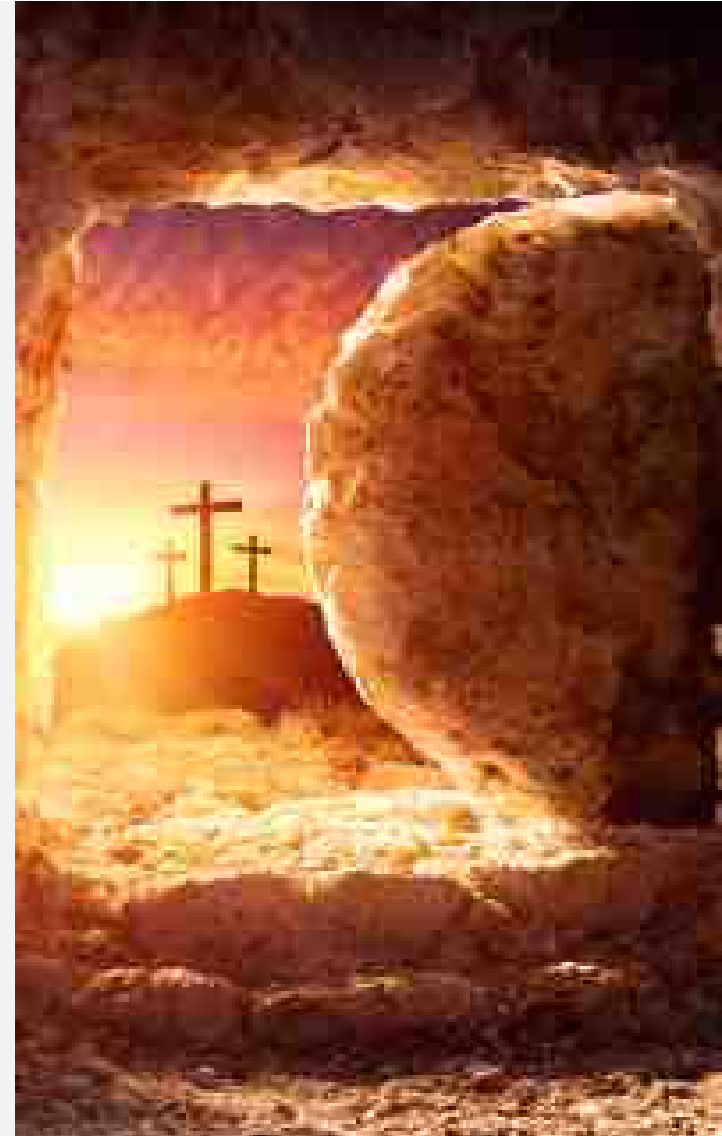
**新しい命を喜んで生きているのか？**



## 【イエスのいのちのため】 II コリント4:11

私たち生きている者は、イエスのために絶えず死に渡されています。それはまた、イエスのいのちが私たちの死ぬべき肉体において現れるためです。

- 古い私が死に、新しい私が生かされる。
  - ➔ 信仰者の成長は、罪の自覚の深まり。  
浮かび上がる罪の私は、すでに死んだ者。  
死んだ者は、手放せばいいだけのこと。



**私たちは、死んでいく過程で、同時に生かされていく**

## 【死んで働くいのち】 Ⅱコリント4:12

こうして、死は私たちのうちに働き、いのちはあなたがたのうちに働いている\*のです。

\*高度な対句法で広がる意味

死・私たち → いのち・私たち ではなく、

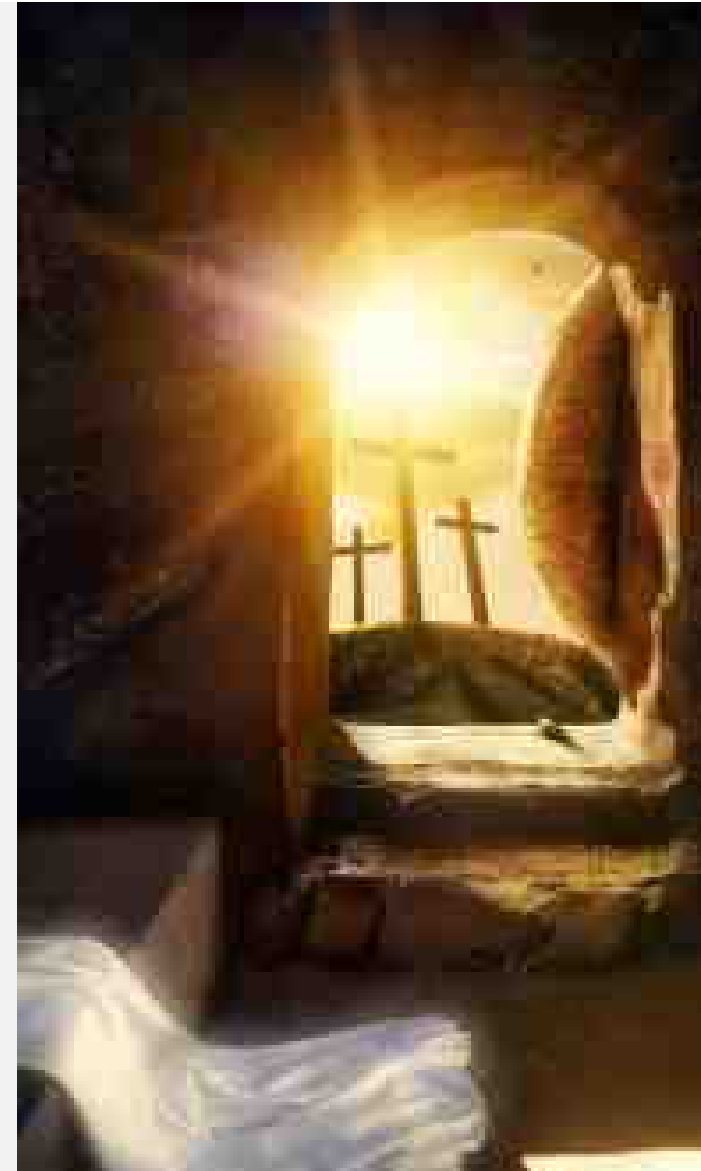
死・私たち → いのち・あなたがた

■死んで、生きるが、信仰者の原則

古い私が死んで、使命に生きるとき、

誰かが死んで、新しいいのちを生きる。

**死ぬべき私が死ねば、新しいいのちを生きる誰かが必ずいる**







Ⅲ. ゴールを見据えて Ⅱコリント4章13～18節

## 【使徒パウロの覚悟】 II コリント4:13

「私は信じています。それゆえに語ります\*」と書かれているとおり、それと同じ信仰の霊\*を持っている私たちも、信じているゆえに語ります。

\*詩篇116:10からの引用

おそらくは迫害を経験した預言者の歌。

\*稀代の信仰者だった預言者も使徒たちも

迫害されながらも語らずにはいられなかった。

「使 7:52 あなたがたの先祖たちが迫害しなかった預言者が、だれかいたのでしょうか。」

…殉教の引き金となったステパノの言葉



## 【パウロの希望】 IIコリント4:14

主イエスをよみがえらせた方が、私たちをもイエスとともによみがえらせ、**あなたがたと一緒に御前に立たせてくださる\*こと**を知っているからです。

**\*パウロが見据えているのは将来の栄化**

■福音を信じた者から救いは失われない。

聖化の過程で紆余曲折を経ながらも、

最後には必ず、栄光の体を与えられ、

王の王、主イエスの御前に立たせられる。



## 【落胆しない】 II コリント4:15~16

すべてのことは、あなたがたのためであり、恵みがますます多くの人々に及んで感謝が満ちあふれ、神の栄光が現れるようになるためなのです。ですから、私たちは落胆しません。

たとえ**私たちの**外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています\*。

■ 落胆するしかない、コリントの現実があるが、福音を信じたがゆえの、主による希望がある。

\* 宣教に命を注いでいる者にしか言えない言葉。

日々死んでいると言えるほどに、主にすべてを献げているのか？



## 【一時の軽い患難】 II コリント4:17

私たちの一時の軽い苦難は、それとは比べものにならないほど重い永遠の栄光を、私たちにもたらすのです。

■ローマの迫害、同胞からの迫害、遭難、災厄の数々、手塩にかけた兄弟姉妹の裏切り…。死んだ方がましと思えるような、数々の苦難を通過した、パウロの言の重さ。

➔パウロすら軽いと言うのなら、私の苦難など、どれほど軽いものか!!



約束された  
栄光の重さとは  
比較にならない  
苦難の軽さ

## 【見えないものに】 II コリント4:18

私たちは見えるものではなく、**見えないもの**に目を留めます。見えるものは一時的であり、**見えないもの**は永遠に続くからです。

- パウロが確信していたのは、栄化のゴール。私もあなたも、完全な者とされる時が来る。復活の栄光の体を与えられ、神の王国に、ただ喜びをもって生きる時が来る。

**将来の約束が、試練を越える力になる。確信を深めて行こう**





## IV. まとめと適用

落胆しない根拠を知ろう

## 落胆しない、パウロの根拠

- 涙ながらに書いた手紙を拒絶され、使徒性まで疑われたパウロ。落胆しなかったわけがない。四方八方から苦しめられ、途方に暮れ、迫害され、倒れた。
- 試練の苦難の中で、パウロは何度も倒れ、死を味わっただろう。
- 主にすぎるしか、どうにもこうにも道はない。絶望の底から主がパウロを引き上げ、道を拓かれ、次へと押し出された。
- 将来に約束された栄光の確信が、パウロにいつでも力を与えた。



## 預言者たちと使徒たちに身をもって教えられること

「私は信じています。それゆえに語ります。Ⅱコリ4:13」

- パウロが引用した詩篇116:10は、神の預言者の苦難の歌だ。主の言葉を世に告げる者には、避けがたい試練と苦難がある。
- 遣わされた先で、心破れて倒れてなお、注がれている力がある。粉々に打ち砕かれて、はじめて味わい知らされる主の恵みがある。
- 詩篇116篇もまた、将来の栄光をゴールに希望を語っている。預言者と使徒パウロが託した希望に、私たちも心を預けよう。

## 詩篇116:1～3

116:1 私は主を愛している。

【主】は私の声 私の願いを聞いてくださる。

116:2 主が私に耳を傾けてくださるので

私は生きていくかぎり 主を呼び求める。

116:3 死の網が私を取り巻き よみの恐怖が私を襲い

私は苦しみと悲しみの中にあつた。

## 詩篇116:1～

116:4 そのとき私は【主】の御名を呼び求めた。

「【主】よどうか 私のいのちを助け出してください。」

116:5 【主】は 情け深く正しい。

まことに私たちの神は あわれみ深い。

116:6 【主】は 浅はかな者をも守られる。

私がおとしめられたとき 私を救ってくださった。

116:7 私のたましいよ おまえの全きいこいに戻れ。

【主】がおまえに良くしてくださったのだから。

## 詩篇116:8～10

116:8 まことにあなたは 私のたましいを死から  
私の目を涙から

私の足をつまずきから 救い出してくださいました。

116:9 私は生ける者の地で 【主】の御前を歩みます。

116:10 私は信じています。まことに私は語ります。

私は大いに苦しんでいました。

## 詩篇116:11

116:11 この私は恐れ うろたえて言いました。

「人はだれでも偽りを言う」と。

116:12 主が私に良くしてくださったすべてに対し

私は【主】に何と応えたらよいのでしょうか。

116:13 私は救いの杯を掲げ 【主】の御名を呼び求めます。

116:14 私は自分の誓いを【主】に果たします。

御民すべての目の前で。

## 詩篇116:15~16

116:15 主の聖徒たちの死は【主】の目に尊い。

116:16 ああ【主】よ 私はまことにあなたのしもべです。

あなたのしもべ あなたのはしための子です。

あなたは私のかせを解いてくださいました。

## 詩篇116:15～

116:17 私はあなたに感謝のいけにえを献げ

【主】の御名を呼び求めます。

116:18 私は自分の誓いを【主】に果たします。

御民すべての目の前で。

116:19 【主】の家の大庭で。エルサレムよあなたのただ中で。

ハレルヤ。

## 福音と信じて救われた、その意味を噛みしめよう

- 信仰の告白は、主の前での誓いでもある。
- 「私の罪のために十字架にかけられ、葬られ、復活された」  
主イエス・キリストを信頼する。  
信頼するとは、預けること。死んで、生まれ変わった者として、  
主のしもべとして生きるという、主の御前での尊い誓いだ。
- 「救われた」とは、私のすべては、主の所有物となったということ。  
命すら、わたしのものではない。主のために用いるのは当然だ。

**主にささげる日々を送っているか。常に問われている。**



## ★ 御言葉に聴き、聴いたならば従おう ★

- 具体的になすべきことは、聖霊があなたに語ってくださる。  
逃れ得ない、目の前に突きつけられた課題が誰しもあるはずだ。
- 向き合えば必ず、打ち砕かれて倒れる。死ぬと言うのだから当然だ。  
それでも主に信頼して踏み出す者は、歩みのただ中で命を得る。
- 永遠の栄光は約束されているのに、何を恐れるのかと主は問われる。  
躊躇する思いもろとも、主の御手に預けて一步を踏み出そう。

**わたしのもとに来なさいと、招かれる主に応えよう**

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの<sup>つみ あがな</sup>罪を贖うために十字架<sup>じゅうじか</sup>で死<sup>し</sup>に、

②墓<sup>はか</sup>に葬<sup>ほうむ</sup>られ、

③三日目<sup>みっかめ</sup>に復活<sup>ふっかつ</sup>した<sup>しん</sup>こと、を信じます。

古い私は死んだ<sup>しんじつ</sup>といいながら、なお捕<sup>と</sup>らわれた私の心があります。

今、真実に、新しいいのちを生きる者としてください。

あなたが目の前に示されている、この課題<sup>かだい</sup>に向かって踏み出<sup>ふ</sup>します。

たお倒れる私を引き上げ、栄光<sup>えいこう</sup>のゴールに導<sup>みちび</sup>かれる主に信<sup>しんらい</sup>頼します。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」

コリント

第二

④

# 「死んで生きる いのちの道」

コリント人への手紙Ⅱ 4章 落胆しないパウロの根拠

# アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. 主の栄光に照らされて 1～6節
- II. 死んで生きるいのち 7～12節
- III. ゴールを見据えて 13～18節
- IV. まとめと適用
  - 落胆しない根拠を知ろう



## コリントの手紙第二とは？

- **著者** …使徒パウロ。
- **年代** …第一(55年)の2年後、57年頃。
- **執筆場所** …コリントへの途上、ピリピ。
- **対象** …コリントのキリスト者たち  
(離散のユダヤ人と異邦人)
- **目的** …アフターケア。献金の促し。  
非難への弁明。再訪問の備え。



海を挟んで約250km  
陸路を廻れば約1,000km

## パウロのコリント訪問

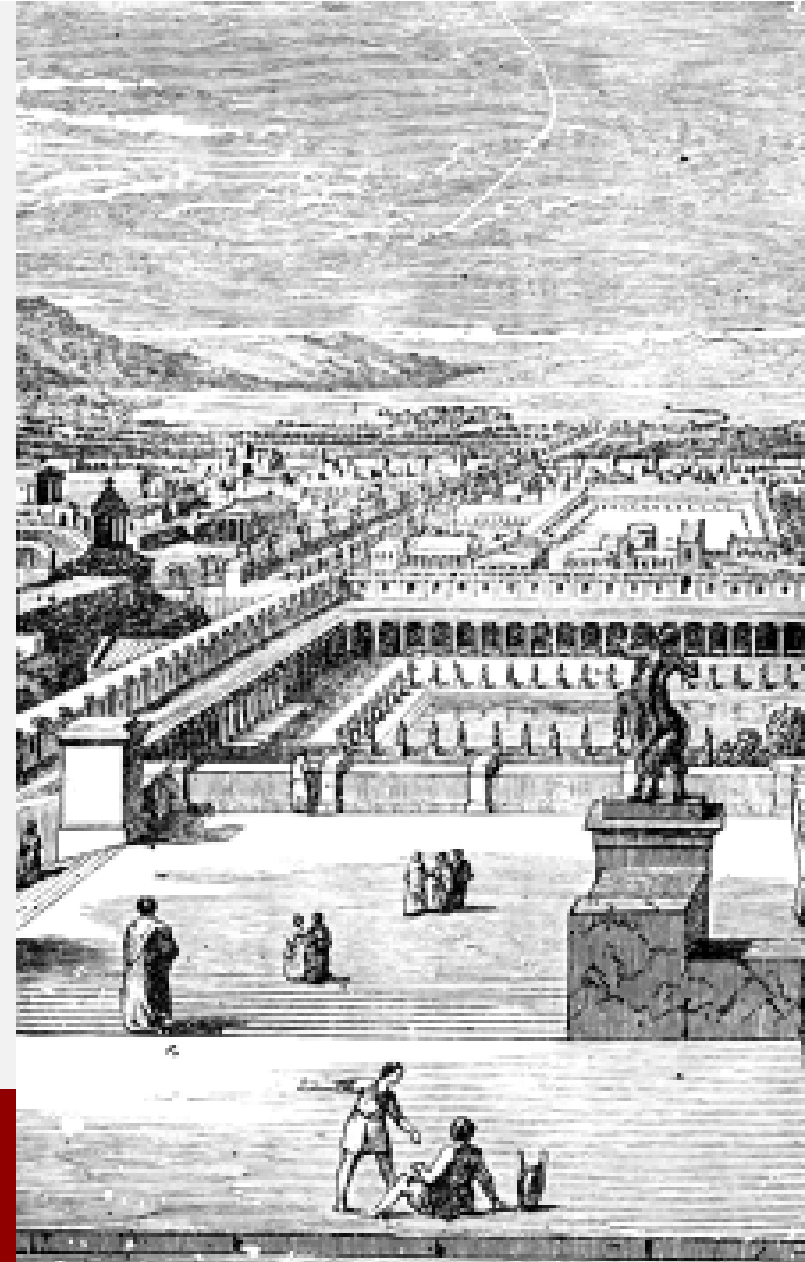
- ① 最初の訪問 (第二次旅行) ・ 1年半滞在 50年
- ② エペソ滞在中 (第三次旅行) 手紙 A を送付  
第一の手紙を送付 54～55年
- ③ 二度目の訪問 (II コリ 13:2) 55年  
手紙 B (悲しみの手紙) を送付
- ④ コリントへの途上で (ピリピ?)  
テトスと合い、現状を聞く  
第二の手紙を送付 55～56年
- ⑤ 三度目の訪問 55～56年



## 【コリントとコリント教会】

- アカヤ州(ギリシャ南部)の州都  
国際都市。ローマ人、ギリシャ人…etc。  
かなりの規模のユダヤ人共同体も存在。
- **不道德**の町。少年への性愛、複数の愛人。  
神殿娼婦の存在。 **偶像崇拜**が蔓延。
- 異邦人信者が主流。偶像への警戒の薄さ。  
基本的教理からの逸脱。自由のはき違え。

第一の手紙の後に変化はあったのか？



# 使徒の福音宣教におけるコリントの地勢的重要性



**教会全体にも大きな影響が!! 放置しては進めない!!**





## 第二の手紙の特徴・テーマ

- 第一の手紙は、コリントの信徒もよく知っているはずの**信仰のイロハのイ**を確認するもの。
- 変化もあった一方で、パウロに強まる反感も。
  - ① グッドニュース…罪を犯した人の悔い改め
  - ② 残念なニュース…献金が集まっていない
  - ③ バッドニュース…パウロの使徒性への疑い
- **伝えるべきこと**は、第一の手紙に執筆済み。さらに加えるとすれば、**パウロ自身の思い**。  
→ **感情**が強く表れた手紙になっている。



リーダーの視点で  
読むべき手紙

パウロの思いをくみ取り、リーダーとして私の信仰を成長させよう



I. 主の栄光に照らされて

Ⅱコリント4章1～6節

## 【落胆しない】 Ⅱコリント4:1

こういうわけで\*、私たちは、**あわれみ**を受けてこの務めについているので、落胆することがありません\*。

\*前章の内容・栄化の希望があるがゆえに!!

\*落胆するしかないような状況であっても!!

■落胆しない根拠は、**主の憐れみ**。

ただ**主の憐れみ**のゆえに救われ、  
将来の栄化までもが約束されている。

➔**使命に生きる信仰者の特権**



コリントの夕景

## 【主の前での弁明】 II コリント4:2

かえって、恥となるような隠し事を捨て、ずる賢い歩みをせず、神のことばを曲げず、真理を明らかにすることで、神の御前で自分自身をすべての人の良心に推薦しています\*。

■ 浮き上がるのは、パウロへの批判

➔ 恥ずかしくも裏で策略を練り、ずる賢く、神の言葉を曲げ、真理を隠している。

\* 自己推薦だ、という批判(3章)を踏まえて

■ 他者の権威ではなく、一人一人に内住される聖霊による権威によって使徒とされている。



コリント・会堂跡

## 【福音の覆い】 Ⅱコリント4:3～4

それでもなお私たちの福音に覆いが掛かっているとしたら、それは、滅び行く人々に対して覆いが掛かっているということです。

彼らの場合は、この世の神\*が、信じない者たちの思いを暗くし、神のかたちであるキリストの栄光に関わる**福音の光**を、輝かせないようにしているのです。

\*あらゆる偶像の背後には悪魔(サタン)が存在



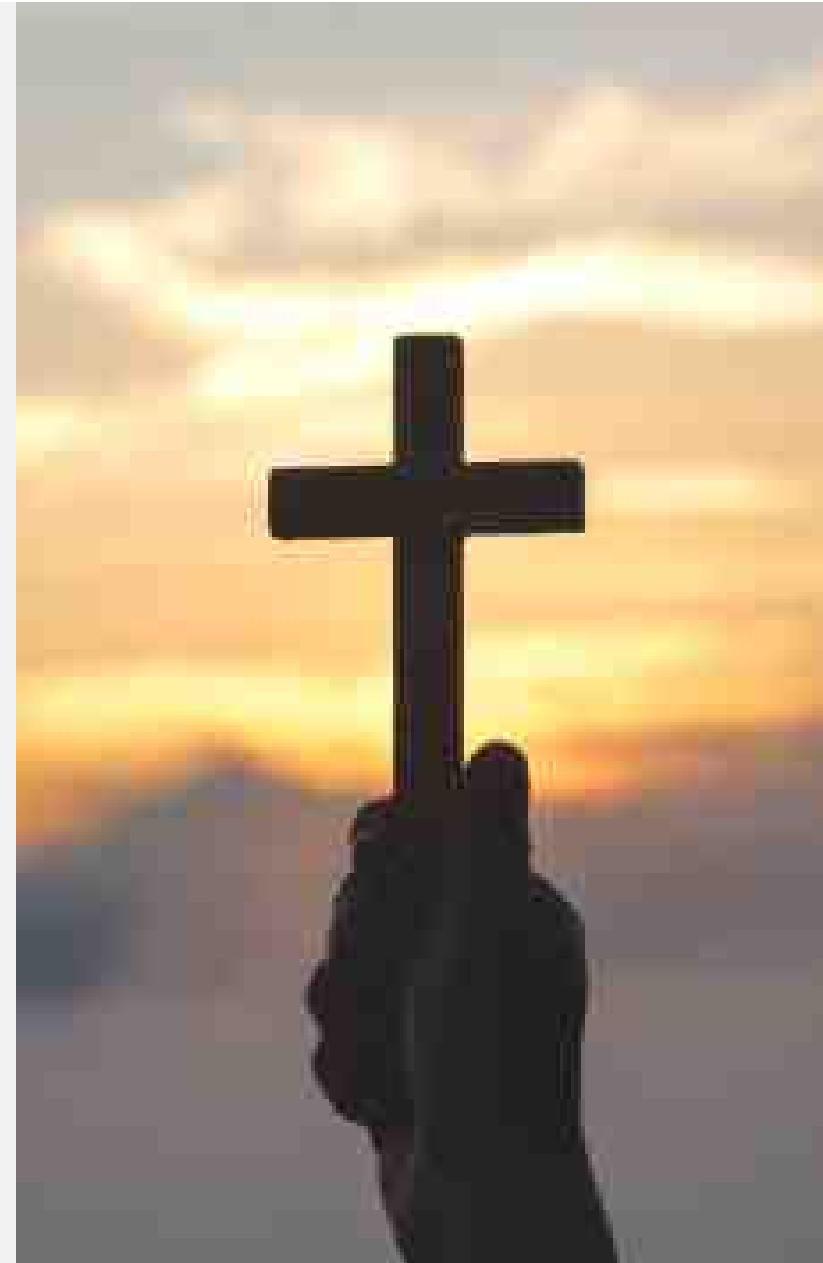
## 【大原則】 IIコリント4:5

私たちは自分自身を宣べ伝えているのではなく、**主なるイエス・キリストを宣べ伝えています**。私たち自身は、イエスのためにあなたがたに仕えるしもべ\*なのです。

■ 信仰者の力は、ただ**主イエスの福音**を宣べ伝えようとするところにのみある。

\*しもべ(奴隷)に力も主権もない。

すべては主人の権威によっている。



## 【栄光の主】 II コリント4:6

「闇の中から光が輝き出よ\*」と言われた神が、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識\*を輝かせるために、私たちの心を照らしてくださいましたのです。

\*「光あれ(創1:3)」

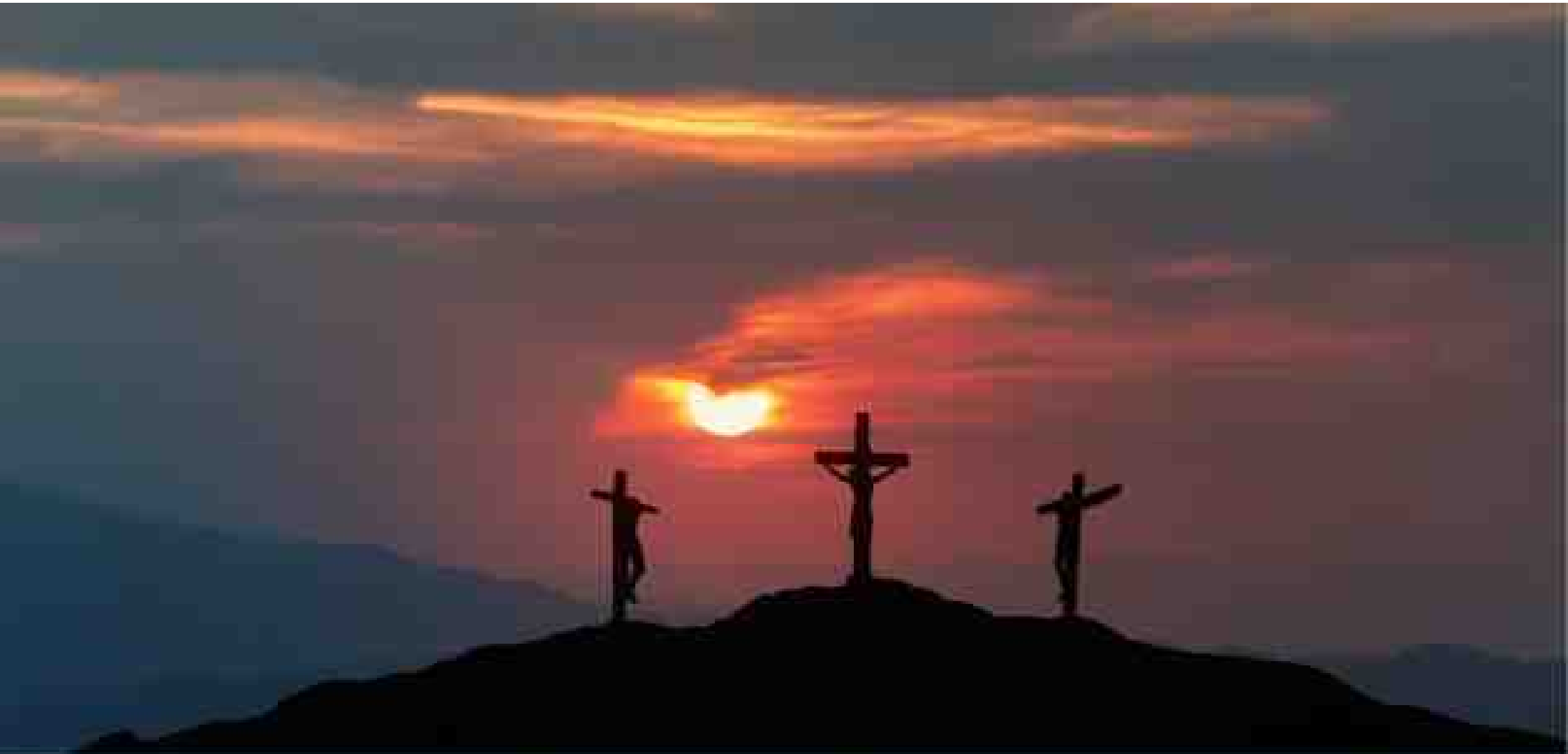
➔ 神の栄光(シャカイナグローリー)の  
顕現が、天地創造のはじめ。

\* 聖書から私たちが学んでいること

■ はじめから終わりまで、すべてのことは、  
生ける神の言葉である主イエスの内にある。







Ⅱ. 死んで生きるいのち Ⅱコリント4章7～12節

## 【土の器】 IIコリント4:7

私たちは、この宝を土の器\*の中に入れて  
います。それは、この測り知れない力が神の  
ものであって、私たちから出たものではない  
ことが明らかになるためです。

\*土の塵からできたのが人(創2:7)

■主が使徒に選んだのは、漁師、徴税人、  
主イエスの迫害者で、裏切り者となった  
元パリサイ人。

■主はご自身の栄光のため、  
弱い者を用い、力ある者を砕かれる。



## 【避けようのない苦難】 II コリント4:8~9

私たちは四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方に暮れますが、行き詰まることはありません。

迫害されますが、見捨てられることはありません。倒されますが、滅びません。

\* 信仰者には、避けようのないこと。

➡ 苦しめられ、途方に暮れ、迫害され、倒れる。

➡ しかし主は、必要を満たし、逃れの道を与え、見捨てず、滅ぼさない。



## 【主の死を帯びて】 II コリント4:10

私たちは、いつもイエスの死を身に帯びています。それはまた、イエスのいのちが私たちの身に現れるためです。

- 主イエスの福音を信じた瞬間、古い罪の私も、十字架で主と死んで、主と共に生まれ変わった。
- 古い私は死んだ。ならなぜ、死んだ私の感情を今も引きずるのか？

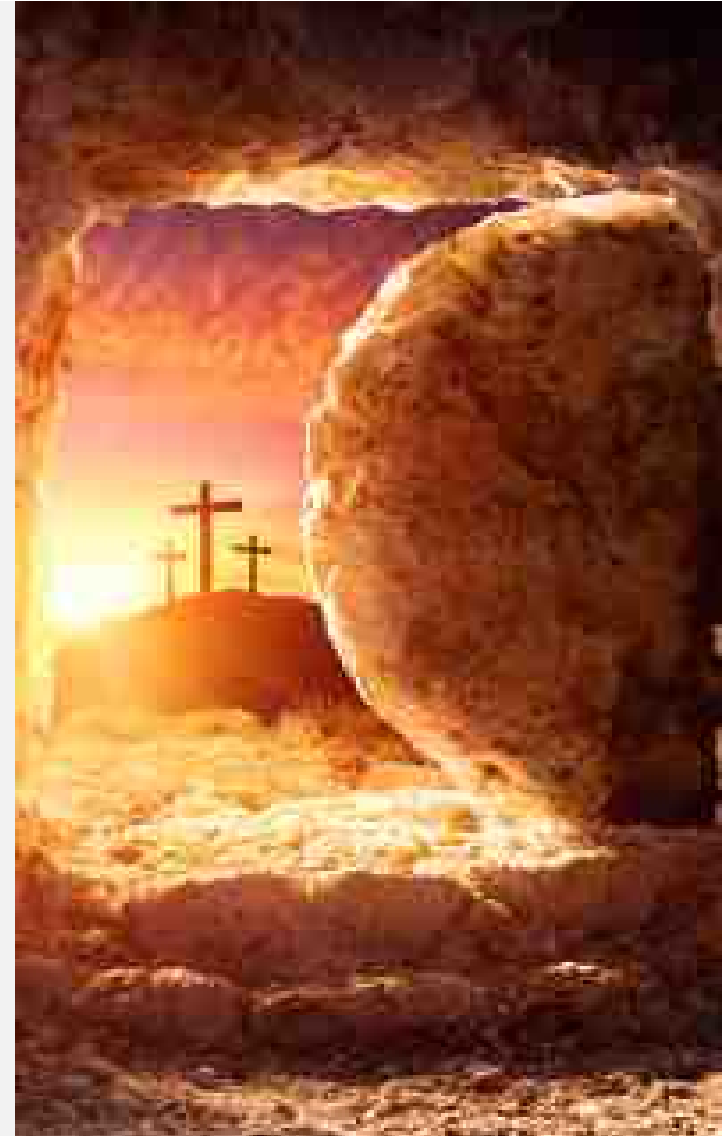
**新しい命を喜んで生きているのか？**



## 【イエスのいのちのため】 II コリント4:11

私たち生きている者は、イエスのために絶えず死に渡されています。それはまた、イエスのいのちが私たちの死ぬべき肉体において現れるためです。

- 古い私が死に、新しい私が生かされる。
  - ➔ 信仰者の成長は、罪の自覚の深まり。
    - 浮かび上がる罪の私は、すでに死んだ者。
    - 死んだ者は、手放せばいいだけのこと。



**私たちは、死んでいく過程で、同時に生かされていく**

## 【死んで働くいのち】 Ⅱコリント4:12

こうして、死は私たちのうちに働き、いのちはあなたがたのうちに働いている\*のです。

\*高度な対句法で広がる意味

死・私たち → いのち・私たち ではなく、

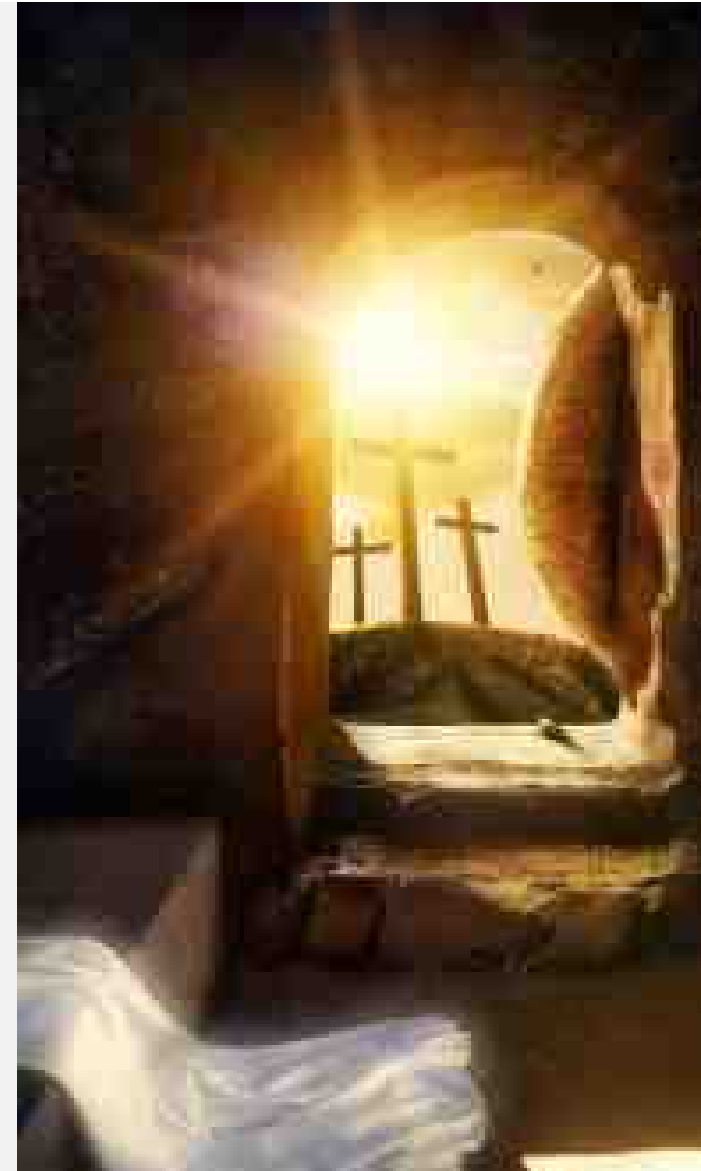
死・私たち → いのち・あなたがた

■死んで、生きるが、信仰者の原則

古い私が死んで、使命に生きるとき、

誰かが死んで、新しいいのちを生きる。

**死ぬべき私が死ねば、新しいいのちを生きる誰かが必ずいる**





Ⅲ. ゴールを見据えて Ⅱコリント4章13～18節

## 【使徒パウロの覚悟】 II コリント4:13

「私は信じています。それゆえに語ります\*」と書かれているとおり、それと同じ信仰の霊\*を持っている私たちも、信じているゆえに語ります。

\*詩篇116:10からの引用

おそらくは迫害を経験した預言者の歌。

\*稀代の信仰者だった預言者も使徒たちも

迫害されながらも語らずにはいられなかった。

「使 7:52 あなたがたの先祖たちが迫害しなかった預言者が、だれかいたのでしょうか。」

…殉教の引き金となったステパノの言葉





## 【パウロの希望】 IIコリント4:14

主イエスをよみがえらせた方が、私たちをもイエスとともによみがえらせ、**あなたがたと一緒に御前に立たせてくださる\*こと**を知っているからです。

**\*パウロが見据えているのは将来の栄化**

■福音を信じた者から救いは失われない。

聖化の過程で紆余曲折を経ながらも、

最後には必ず、栄光の体を与えられ、

王の王、主イエスの御前に立たせられる。



## 【落胆しない】 II コリント4:15~16

すべてのことは、あなたがたのためであり、恵みがますます多くの人々に及んで感謝が満ちあふれ、神の栄光が現れるようになるためなのです。ですから、私たちは落胆しません。

たとえ**私たちの**外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています\*。

■ 落胆するしかない、コリントの現実があるが、福音を信じたがゆえの、主による希望がある。

\* 宣教に命を注いでいる者にしか言えない言葉。

日々死んでいると言えるほどに、主にすべてを献げているのか？



## 【一時の軽い患難】 II コリント4:17

私たちの一時の軽い苦難は、それとは比べものにならないほど重い永遠の栄光を、私たちにもたらすのです。

■ローマの迫害、同胞からの迫害、遭難、災厄の数々、手塩にかけた兄弟姉妹の裏切り…。死んだ方がましと思えるような、数々の苦難を通過した、パウロの言の重さ。

➔パウロすら軽いと言うのなら、私の苦難など、どれほど軽いものか!!



約束された  
栄光の重さとは  
比較にならない  
苦難の軽さ

## 【見えないものに】 II コリント4:18

私たちは見えるものではなく、**見えないもの**に目を留めます。見えるものは一時的であり、**見えないもの**は永遠に続くからです。

- パウロが確信していたのは、栄化のゴール。私もあなたも、完全な者とされる時が来る。復活の栄光の体を与えられ、神の王国に、ただ喜びをもって生きる時が来る。

**将来の約束が、試練を越える力になる。確信を深めて行こう**





## IV. まとめと適用

落胆しない根拠を知ろう

## 落胆しない、パウロの根拠

- 涙ながらに書いた手紙を拒絶され、使徒性まで疑われたパウロ。落胆しなかったわけがない。四方八方から苦しめられ、途方に暮れ、迫害され、倒れた。
- 試練の苦難の中で、パウロは何度も倒れ、死を味わっただろう。
- 主にすぎるしか、どうにもこうにも道はない。絶望の底から主がパウロを引き上げ、道を拓かれ、次へと押し出された。
- 将来に約束された栄光の確信が、パウロにいつでも力を与えた。

## 預言者たちと使徒たちに身をもって教えられること

「私は信じています。それゆえに語ります。Ⅱコリ4:13」

- パウロが引用した詩篇116:10は、神の預言者の苦難の歌だ。主の言葉を世に告げる者には、避けがたい試練と苦難がある。
- 遣わされた先で、心破れて倒れてなお、注がれている力がある。粉々に打ち砕かれて、はじめて味わい知らされる主の恵みがある。
- 詩篇116篇もまた、将来の栄光をゴールに希望を語っている。預言者と使徒パウロが託した希望に、私たちも心を預けよう。

## 詩篇116:1～3

116:1 私は主を愛している。

【主】は私の声 私の願いを聞いてくださる。

116:2 主が私に耳を傾けてくださるので

私は生きていくかぎり 主を呼び求める。

116:3 死の網が私を取り巻き よみの恐怖が私を襲い

私は苦しみと悲しみの中にあつた。



## 詩篇116:1～

116:4 そのとき私は【主】の御名を呼び求めた。

「【主】よどうか 私のいのちを助け出してください。」

116:5 【主】は 情け深く正しい。

まことに私たちの神は あわれみ深い。

116:6 【主】は 浅はかな者をも守られる。

私がおとしめられたとき 私を救ってくださった。

116:7 私のたましいよ おまえの全きいこいに戻れ。

【主】がおまえに良くしてくださったのだから。

## 詩篇116:8～10

116:8 まことにあなたは 私のたましいを死から  
私の目を涙から

私の足をつまずきから 救い出してくださいました。

116:9 私は生ける者の地で 【主】の御前を歩みます。

116:10 私は信じています。まことに私は語ります。

私は大いに苦しんでいました。

## 詩篇116:11

116:11 この私は恐れ うろたえて言いました。

「人はだれでも偽りを言う」と。

116:12 主が私に良くしてくださったすべてに対し

私は【主】に何と応えたらよいのでしょうか。

116:13 私は救いの杯を掲げ 【主】の御名を呼び求めます。

116:14 私は自分の誓いを【主】に果たします。

御民すべての目の前で。

## 詩篇116:15~16

116:15 主の聖徒たちの死は【主】の目に尊い。

116:16 ああ【主】よ 私はまことにあなたのしもべです。

あなたのしもべ あなたのはしための子です。

あなたは私のかせを解いてくださいました。

## 詩篇116:15～

116:17 私はあなたに感謝のいけにえを献げ

【主】の御名を呼び求めます。

116:18 私は自分の誓いを【主】に果たします。

御民すべての目の前で。

116:19 【主】の家の大庭で。エルサレムよあなたのただ中で。

ハレルヤ。

## 福音と信じて救われた、その意味を噛みしめよう

- 信仰の告白は、主の前での誓いでもある。
- 「私の罪のために十字架にかけられ、葬られ、復活された」  
主イエス・キリストを信頼する。  
信頼するとは、預けること。死んで、生まれ変わった者として、  
主のしもべとして生きるという、主の御前での尊い誓いだ。
- 「救われた」とは、私のすべては、主の所有物となったということ。  
命すら、わたしのものではない。主のために用いるのは当然だ。

**主にささげる日々を送っているか。常に問われている。**

## ★ 御言葉に聴き、聴いたならば従おう ★

- 具体的になすべきことは、聖霊があなたに語ってくださる。  
逃れ得ない、目の前に突きつけられた課題が誰しもあるはずだ。
- 向き合えば必ず、打ち砕かれて倒れる。死ぬと言うのだから当然だ。  
それでも主に信頼して踏み出す者は、歩みのただ中で命を得る。
- 永遠の栄光は約束されているのに、何を恐れるのかと主は問われる。  
躊躇する思いもろとも、主の御手に預けて一步を踏み出そう。

**わたしのもとに来なさいと、招かれる主に応えよう**

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの<sup>つみ あがな</sup>罪を贖うために十字架<sup>じゅうじか</sup>で死<sup>し</sup>に、

②墓<sup>はか</sup>に葬<sup>ほうむ</sup>られ、

③三日目<sup>みっかめ</sup>に復活<sup>ふっかつ</sup>した<sup>しん</sup>こと、を信じます。

古い私は死んだ<sup>しんじつ</sup>といいながら、なお捕<sup>と</sup>らわれた私の心があります。

今、真実に、新しいいのちを生きる者としてください。

あなたが目の前に示されている、この課題<sup>かだい</sup>に向かって踏み出<sup>ふ</sup>します。

たお倒れる私を引き上げ、栄光<sup>えいこう</sup>のゴールに導<sup>みちび</sup>かれる主に信<sup>しんらい</sup>頼します。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」